

# 構造設計特記仕様

※修正箇所は下線を引くこと。  
適用は ■ 印を記入する。

## 0. 共通事項

- (1) 設計図面及び特記仕様書に記載されていない事項は下記の図書を適用する。  
国土交通省大臣官房官庁営繕部監修公共建築工事標準仕様書（建築工事編）平成31年版（以下標仕）  
日本建築学会建築工事標準仕様書・同解説 JASS5・6（2018年版）（以下 JASS5・6）  
（但し、対応不可能なものについては2015年版としてよいが、設計者及び監理者と協議すること）  
(2) 設計図書優先順位＝質問回答書＞現場説明書＞特記仕様書＞設計図面＞標仕＞JASS5及びJASS6

## 1. 建築物の構造内容

- (1) 建築場所 小千谷市大字塩殿甲2144番地  
(2) 工事種別 □新築 ■別棟増築 □改築 □移転 □大規模修繕 □大規模模様替 □用途変更  
(3) 構造設計一級建築士の関与 □必要 ■必要としない  
□法第20条第一号（高さ60m超）  
■法第20条第二号（□RC造高さ20m超□S造4階建以上□W造高さ13m超■その他）  
注）構造設計一級建築士の関与が義務づけられる建築物については解説書等を参照して確認すること  
(4) 構造種別  
□木造(W) □補強コンクリートブロック造(CB) ■鉄骨造(S)  
□鉄筋コンクリート造(RC) □壁式鉄筋コンクリート造(WRC)  
□鉄骨鉄筋コンクリート造(SRC) □壁式プレキャスト鉄筋コンクリート造(WPRC)  
□プレキャスト鉄筋コンクリート造(PRC) □薄板軽量形鋼造(スチールハウス)  
(5) 階数  
1棟 学校（総合支援学校 職員室） 地下 階 地上 1階 塔屋 階

- (6) 主要用途 学校（総合支援学校 職員室）  
(7) 屋上付属物  
□高架水槽 kN □キュービクル kN □広告塔 □煙突 □室外機置場  
(8) 特別な荷重  
□EV 11人乗(□マシンルームレス□ロープ式) □DW kN □ホイスト kN  
□倉庫積載床用 N/m<sup>2</sup> □受水槽 kN □クレーン 基  
(9) 付帯工事  
□門扉 □擁壁 □駐輪場 □駐車場 □機械式駐車場 □サイロ  
(10) 増築計画 □有( ) ■無  
(11) 構造計算ルート  
1棟 事務所 X方向ルート 1-2 Y方向ルート 1-2

## 2. 使用建築材料表・使用構造材料一覧表

(1) コンクリート (レディーミクストコンクリート JIS Q1001, JIS Q1011, JIS A5308)				
適用箇所	種類	設計基準強度 (F <sub>c</sub> ) =N/mm <sup>2</sup> 品質基準強度 (F <sub>q</sub> ) =N/mm <sup>2</sup>	スランブ cm以下	備考
捨てコンクリート	■普通	■18φ21□24□27□30□33□36□40	■15φ21	スランブ許容差±2.5cm
土間コンクリート	□普通	□18φ21□24□27□30□33□36□40	□15φ21	スランブ許容差±2.5cm
基礎、基礎梁	■普通	■18φ21■24□27□30□33□36□40	■18φ21	スランブ許容差±2.5cm
柱、梁、床、壁	■普通、□軽量	■18φ21□24□27□30□33□36□40 □18φ21■24□27□30□33□36□40	■18φ21	スランブ許容差±2.5cm
デッキ上コンクリート	□普通、□軽量	□18φ21□24□27□30□33□36□40 □18φ21■24□27□30□33□36□40	□18φ21	スランブ許容差±2.5cm
細骨材の種類	■砂 □山砂 □人工 □			
粗骨材の種類	■砂利 □砕石 □人工 □			
水の区分	■水道水 □地下水 □工業用水 □回收水			
混和材料の種類 (JIS A 6204)	■A E減水剤 □高性能A E減水剤 □膨張剤			
呼び強度を保証する材齢、養生	材齢：■28日 □56日 □91日 □ 養生：■現場封緘 ■現場水中 □標準 □			
計画供用期間の級＝標準 品質基準強度 (F <sub>q</sub> ) に土間コンクリート、捨てコンクリート及びラッフルコンクリートは適用しない F <sub>q</sub> =MAX(F <sub>c</sub> , F <sub>d</sub> ) 調合管理強度は標仕6.4.5による				

- (2) コンクリートブロック (□JIS A 5406)  
□A種 □B種 □C種 厚□100 □120 □150 □190 使用箇所(□ )

異形鉄筋 (JIS G 3112)	種類	径	使用箇所	継手工法
	■SS295A □SS295B ■SS345 □SS390	Ø10~Ø16 Ø19~Ø25	床、STP、HOP 主筋	■重ね継手 ■ガス圧接継手 ■溶接継手 ■機械式継手 ■機械式定着 (Q32以上)
高強度せん断補強筋	□UH77-7 □KSS785			大臣認定番号 大臣認定番号
丸鋼 (JIS G 3112)	□SR235			
溶接金網 (JIS G 3551)	□6φ-100x100 □6φ-150x150 □6φ-75x75 □D10 #200 □D10 #150		□QLデッキ □EZ, HYPER デッキ	

種 類	使用箇所	現場溶接	JIS規格・認定番号等
	鉄骨リスト参照	□有 ■無	JIA G 3101, 3350, 3136
■SS400 ■SSC400 ■SN400A◎C	鉄骨リスト参照	□有 □無	JIA G 3101, 3350, 3136
■SS400 □SSC400 □SN490A◎C	鉄骨リスト参照	□有 □無	JIA G 3466, 3444
■STR400 □STR490 □STK400	鉄骨リスト参照	□有 ■無	大臣認定番号MSTL-0142同等
■BQR295 □BQP235 □BQP325	鉄骨リスト参照	□有 ■無	JIA G 3106, 3136
□SN490A ■SN490B ■SN490C	鉄骨架橋部参照	□有 ■無	大臣認定番号MSTL-0129同等 大臣認定番号MSTL-0120同等
□TMCP (HBL325B)			
□BT-HT440B-SF (建築構造用高溶接性高性能590N/mm <sup>2</sup> 鋼材)			
□溶接材料 JIS Z 3211, 3312, 3313, 3223			

種 類	使用箇所	現場溶接	JIS規格・認定番号等
	鉄骨リスト参照	□有 ■無	JIA G 3101, 3350, 3136
■SS400 ■SSC400 ■SN400A◎C	鉄骨リスト参照	□有 □無	JIA G 3101, 3350, 3136
■SS400 □SSC400 □SN490A◎C	鉄骨リスト参照	□有 □無	JIA G 3466, 3444
■STR400 □STR490 □STK400	鉄骨リスト参照	□有 ■無	大臣認定番号MSTL-0142同等
■BQR295 □BQP235 □BQP325	鉄骨リスト参照	□有 ■無	JIA G 3106, 3136
□SN490A ■SN490B ■SN490C	鉄骨架橋部参照	□有 ■無	大臣認定番号MSTL-0129同等 大臣認定番号MSTL-0120同等
□TMCP (HBL325B)			
□BT-HT440B-SF (建築構造用高溶接性高性能590N/mm <sup>2</sup> 鋼材)			
□溶接材料 JIS Z 3211, 3312, 3313, 3223			

## (5) ボルト

- 高力ボルト  
□F10T (JIS B1186) ■S10T 認定番号 (MBLT-0052同等)  
□F8T 認定番号 (MBLT-0050同等)  
■M16 ■M20 □M22 □M24  
■ボルト (JIS B1180) : M12 M , 強度レベル4T 強度区分4.8  
■アンカーボルト、□頭付スタッドボルト (JIS B1198) → 鉄骨部材リストによる

## (6) 屋根、床、壁

- 外壁 押出成形セメント板 t=60 縦張り  
■屋根 カラーガルバリウム鋼板折板葺 H=162 t=1.0 (ハゼ)  
□合成スラブ構造デッキプレート 形式 QLデッキ 99-50-12 Z12  
□床型枠用鋼製デッキプレート 形式 フラット 厚  
□特殊デッキプレート  
■押出成形セメント板 t=60  
□穴あきPC板スパンクリート t=  
□カーテンウォール □方立 □バックマリオン □スパンドレル □パネル

## 3. 地盤

- (1) 地盤調査と調査計画  
■有 (■敷地内□近隣) □無 (調査予定 □有 □無)

調査項目	資料有り	調査計画	調査項目	資料有り	調査計画
ボーリング結果	○		標準貫入試験		
水平地盤反力係数の測定			土質試験 (物理試験)		
試験壁 (支持層の確認)			平板載荷試験		
スエーデン式サウンディング			現場透水試験		
孔内水平載荷試験			三軸圧縮試験		
			一軸圧縮試験		

注) 上記表中の資料があるもの、調査計画があるものに○を記入する。

深 度	土質	N値		標準貫入試験					調査地番 ※近隣敷地参照
		No.1	No.2	10	20	30	40	50	
1									●調査地番 ※近隣敷地参照
2									
3									
4									
5									
6									
7									
8									
9									
10									
11									●位置図 ボーリング柱状図による
12									
13									
14									
15									
16									
17									
18									
19									
20									
21									○支持地盤、地層及び深さについて のコメント
22									
23									
24									
25									
26									
27									
28									
29									
30									
31									○孔内水位 G L - m付近
32									
33									
34									
35									
36									
37									
38									
39									
40									
41									○近隣データの調査地番と 設計地番とは約 mの距離 がある
42									
43									
44									
45									
46									
47									
48									
49									
50									
51									○備考 土留め壁工法は「・・・工法」 程度を推測する
52									
53									
54									
55									
56									
57									
58									
59									
60									

注) 地盤調査及び試験杭の結果により、杭長さ、杭種、直接基礎の深さ、形状を変更する場合がある。

## 4. 地業工事

- (1) 直接基礎 □ベタ基礎 □布基礎 ■独立基礎 試験壁 □有 □無  
深さ平均G L - 1.5m、支持層一砂礫層 長期許容支持力 500kN/m<sup>2</sup>  
載荷試験 ■有 □無  
(2) 地盤改良 □浅層混合処理工法 □深層混合処理工法 □湿式柱状改良工法  
深さ平均G L - m、長期許容支持力 kN/m<sup>2</sup>、載荷試験 □有 □無  
注) 「建築物のための改良地盤の設計及び品質管理指針：日本建築センター2002」を参考とする

杭 種	材 料	施工法	備 考
□PHC □BF-DAM105	PHC (□A種、□B種、□C種) BF (□A種、□B種、□C種)	□SUPER-ギンギ工法 □埋込み (スーパーギンギ工法)	□大臣認定番号 TAQP-0190
□RC □PRC □鋼管 □摩擦杭 □SC杭 □H鋼	鋼 材 □SS400 □SKK400 □STKT590 (SEAH590)	□ATT-コラム工法 (先端置付回転貫入鋼管杭 併用)	□大臣認定番号 TAQP-0199
□場所打ち コンクリート杭	コンクリート F <sub>c</sub> = 30N/mm <sup>2</sup> F <sub>q</sub> = 30N/mm <sup>2</sup> スランブ = 2.10m以下 セメント量 = 300kg/m <sup>3</sup> 鉄筋 主筋=SD390 帯筋=SD295A	□オールケーシング □拡底杭 □リバーササーキュレーション □アースドリル □ミニアース □BH □深堀 □手堀 □機械掘	第 年 月 日 認定 号

杭仕様 □施工計画書承認 □杭施工結果報告書 試験杭 (□有 □無) (□打ち込み□載荷□孔壁測定□支持層確認) 本 (本杭兼用)				
杭径 (mm)	設計支持力 (kN)	杭の先端の深さ (m)	本数	特記事項

## 5. 鉄筋コンクリート工事 (施工方法等計画書)

- (1) コンクリート  
■ コンクリートはJIA A 5308に適合するJIS認定工場の製品とし、施工は標準図に記載されている事項を除きJASS5による。  
■ 耐久設計基準強度 F<sub>d</sub> (N/mm<sup>2</sup>) □短期18 ■標準24 □長期30 □超長期36  
■ セメントは、JIS R 5210の普通ポルトランドセメントを標準とする。  
■ 混合計画は、工事開始前に工事監理者の承認を得ること。  
設計基準強度 21、24N/mm<sup>2</sup> 単位水量 185kg/m<sup>3</sup>以下  
水セメント比 65%以下 単位セメント量 270kg/m<sup>3</sup>以上かつ450kg/m<sup>3</sup>以下  
空気量 4.5%  
■ 寒中、暑中、その他特殊コンクリートの適用を受ける期間に当る場合は、調査、打ち込み、養生、管理方法など必要事項について、工事監理者の承認を得ること。  
■ フレッシュコンクリートの塩化物測定は、原則として工事現場で(財)国土開発技術研究センターの技術評価をうけた測定器を用いて行い、試験結果の記録及び測定器の表示部を一回の測定ごとに撮影した写真(カラー)を保管し承認を得る。  
測定検査の回数は、通常の場合、1日1回以上とし、1回の検査における測定試験は、同一試料から取り分けて3回行い、その平均値を試験値とする。  
■ 構造体コンクリートについて現場の圧縮強度試験試体 (JASS5 T-603) は、現場中養生、または現場静か養生とし、採取は打ち込み区ごととする。また、打ち込み量が150㎢をこえる場合は150㎢ごまとは、その塊数ごとに1回を標準とする。1回に採取する供試体は、適当な間隔をおいた3台の運搬車からその必要本数を採取する。なお供試体の数量は特別指示なき場合は、1回り4本以上とし、そのうち4週用に3本を用いる。  
■ コンクリート打ち込み中及び打ち込み後5日間は、コンクリートの温度が2度を下らないようにする。  
■ 乾燥、振動等によって、コンクリートの凝結及び硬化が妨げられないように養生を行う。  
■ コンクリートは、打ち込み位置とできるだけ近づけて垂直に打ち、コンクリートの自由落下高さは、コンクリートが分離しない範囲とする。ポンプ圧送に際しては、コンクリート圧送技士または同等以上の技能を有する者が従事すること。なお、打ち込み継続中における打継ぎ時間間隔の限度は、外気温が25℃未満の場合は150分、25℃以上の場合は120分以内とする。  
■ 水は、JIS A5308 (レディーミクストコンクリート) の附属書3 (規定)  
「レディーミクストコンクリートの練混ぜに用いる水」による。

## (2) 鉄 筋

- 鉄筋はJIS G3112の規格品を標準とする。施工は、標準図に記載されている事項を除き、JASS5による。  
□ 高強度せん断補強筋は、JIS G3137に規定されるD種1号適合品とする。  
■ 鉄筋の加工寸法、形状、かぶり厚さ、鉄筋の継手位置、継手の重ね長さ、定着長さは「鉄筋コンクリート構造設計標準図(1) (2)」による。また、「壁式鉄筋コンクリート構造設計標準図(1) (2)」による。  
■ 配筋にあたっては、日本建築学会「鉄筋コンクリート造配筋指針・同解説(最新版)」 「壁構造配筋指針(最新版)」を必ず参考にする。  
■ 鉄筋継手等

鉄筋継手工法	継手の位置等の設計条件による仕様・等級			鉄筋の径
	(1) 引張力最小部位		(2) (1) 以外の部位※	
		A級	B級 S A級	
■重ね継手	■40d □35d □( ) d			■D(16) 以下
■ガス圧接継手	■告示1463号第2項各号	■		■D(19) 以上
□溶接継手	□告示1463号第3項各号	□	□	□D( ) 以下
□機械式継手	□告示1463号第4項各号	□	□ □ □	□D( ) 以下

- ※ (1) 以外の部位に設ける継手は、平成12年告示1463号ただし書きに基づき、日本鉄筋継手協会、日本建築センター等の認定・評定等取得した継手工法の等級で、構造計算に当たっては「鉄筋継手使用基準(建築物の構造関係技術基準解説書2007)」によって検討した部材の条件・仕様によること。  
■ D19未満は、すべて重ね継手とする。  
■ 継手部分の施工要領は、日本鉄筋継手協会「鉄筋継手工事標準仕様書(最新版)」による。(ガス圧接・溶接・機械式継手工事)  
継手部分の検査方法 ・ 外観検査 ■有 ・ 引張試験 □有 □無 ・ 超音波深部試験 ■有  
ガス圧接部分の検査を超音波深部試験によって行う場合は、最初の数ロットについては引張試験も併用し、1回の試験は5本以上とする。(1ロットは同一作業班が同一日に作業した圧接箇所にて200箇所程度とする)  
■ 柱の帯筋 (H○○P) の加工方法は、■H型 (タガ型) □W型 (溶接型) ■S型 (スパイラル型) とする。  
■ コンクリート及び鉄筋の試験は「建築物の工事における試験及び検査に関する東京都採取要綱」第4条の試験機関で行うこと。  
試験機関名 (都知事登録 号)  
代行業者名とは、試験・検査に伴う業務を代行業者を言う。  
代行業者名

## (3) 型 枠

種別 部位	せ き 板		支 柱	
	基礎、はり側、柱、壁	スラブ下、はり下	スラブ下	はり下
セメントの種類 在り期間の平均気温	早強ポルトランドセメント	普通ポルトランドセメント	早強ポルトランドセメント	普通ポルトランドセメント
	高炉セメント A種 シリカセメント A種	高炉セメント A種 シリカセメント A種	高炉セメント A種 シリカセメント A種	高炉セメント A種 シリカセメント A種
	2	3	4	8
	3	5	6	10
コンクリートの 材料 目	15℃以上	2	3	4
	5℃~15℃	3	5	6
コンクリートの 圧縮強度	5℃未満	5	8	10
	5.0N/mm <sup>2</sup>	設計基準強度の50%	設計基準強度の85%	100%

- 注) 1) 片持ばり、底、スパン9.0m以上のはり下は、工事監理者の指示による。  
注) 2) 大ばりの支柱の盛りかえは行わない。また、その他のはりの場合は原則として行わない。  
注) 3) 支柱の盛りかえは、必ず直上間のコンクリート打ち後とする。  
注) 4) 盛りかえ後の支柱頂部には、厚い受板、角材または、これに代わるものを置く。  
注) 5) 支柱の盛りかえは、小ばりが終わってから、スラブを行う。一時に全部の支柱を取り払って、盛りかえをしなければならない。  
注) 6) 直上層に著しく大きい積載荷重がある場合においては、支柱(大梁の支柱を除く)の盛りかえを行わないこと。  
注) 7) 支柱の盛りかえは、養生中のコンクリートに有害な影響をもたらすおそれのある振動または衝撃を与えないこと。  
注) 8) 上表以外のセメントを使用する場合は工事監理者の指示による。

## 6. 鉄骨工事 (施工方法等計画書)

- (1) 鉄骨工事は指示のない限り下記の最新版による  
■ 日本建築学会「JASS6」「鉄骨精度測定指針」「鉄骨工事技術指針」 ■ 日本鋼構造協会「建築鉄骨工事施工指針」  
■ 鉄骨製作管理技術者登録機構「突合せ継手のくい違い仕口のずれの検査・補強マニュアル」  
(2) 工事監理者の承認を必要とするもの  
■製作工場 ■製作要領書 ■工作図 ■施工計画書  
■認定または登録工場 (大臣認定□S □H □M □R □J グレード以上 都登録□T1 □T2 □T3ランク)  
■材料規格証明書※、または試験成績書  
※日本鋼構造協会「建築構造用鋼材の品質証明ガイドライン」の規格証明方法、またはミルシートとする。  
■鋼材 ■高力ボルト ■特殊ボルト □頭付スタッド  
■社内検査表 □ □  
(3) 工事監理者が行う検査項目  
(■印以外の項目の検査結果については、工事監理者に報告すること)  
□現況検査 ■組立・開先検査 ■製品検査 ■建方検査 ■材質検査 □テープ合わせ  
(4) 接合部の溶接は下記によること  
■ 平成

# 鉄筋コンクリート構造配筋標準図 1

## 1. 一般事項

- (1) 本標準図は、鉄筋コンクリート構造部分に適用する。
- (2) 本標準図は、(社)公共建築協会「公共建築工事標準仕様書(建築工事編)」(平成31年版)に基づいて作成したものである。(一部JASS5鉄筋コンクリート工事(2018年版)による。)
- (但し、対応不可能なものについては2015年版としてよいが、設計者及び監理者と協議すること)
- (3) 図書の優先順位
- 設計図>本標準図>上記標準仕様書>日本建築学会「鉄筋コンクリート造配筋指針・同解説(最新版)」
- (4) 上記各図書類に記載なき場合は、監督員と協議する。
- (5) 本標準図中特に単位のない寸法は、mmを示す。
- (6) 本標準図中の記号
- |            |                       |      |                 |
|------------|-----------------------|------|-----------------|
| d          | .....異形棒鋼の呼び名又は、丸鋼の直径 | R    | .....直径         |
| C          | .....中心線              | r    | .....半径         |
| l o        | .....部材間の内法寸法         | @, P | .....間隔         |
| h o        | .....部材間の内法高さ         | φ    | .....直径又は、丸鋼    |
| S T        | .....肋筋               | D    | .....異形鉄筋又は、部材成 |
| H O O P    | .....帯筋               |      | .....鉄筋の圧接継手    |
| S. H O O P | .....補強帯筋             |      | .....異形鉄筋止まり位置  |
- (8) 配筋にあたっては、日本建築学会「鉄筋コンクリート造配筋指針・同解説(最新版)」を必ず参考にする。
- (9) 継手にあたっては、日本鉄筋継手協会「鉄筋継手工事標準仕様書(2019年)」を必ず参考にする。

## 2. 鉄筋加工、かぶり、継手

### (1) 鉄筋末端部の折曲げの形状

折曲げ角度	180°	135°	90°	折曲げ角度90°はスラブ筋・壁筋の末端部またはスラブと同時に打ち込むT形及びL形梁のキャップタイにのみ用いる 
-------	------	------	-----	--

### (2) 鉄筋中間部の折曲げの形状

折曲げ図	鉄筋の使用箇所による呼称	鉄筋の種類	鉄筋の径による区分	鉄筋の折曲げ内法寸法(R)
	帯筋、肋筋、スパイラル筋	SR235、SR295 SD295A・B SD345	16φ、D16以下 19φ D19以上	3d以上 4d以上
	上記以外の鉄筋	SD295A・B SD345 SD390	D16以下 D19～D25 D29～D41	4d以上 6d以上 8d以上

### (3) 鉄筋の定着及び重ね継手の長さ

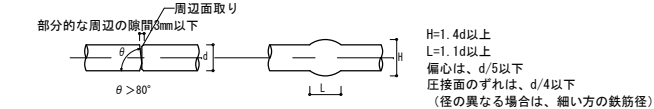
鉄筋の種類	設計基準強 Fc (N/mm <sup>2</sup> )	フックなし		フックあり			
		L1	L2	小梁	床版	小梁	床版
SD295A SD295B SD345	18	45d	40d	25d	10d かつ 150mm以上	35d	30d
	21～24	40d	35d			30d	25d
	27～36	35d	30d			25d	20d
SD390	40～60	30d	25d	25d	10d かつ 150mm以上	20d	15d
	21～24	45d	40d			35d	30d
	27～36	40d	35d			30d	25d
	40～60	35d	30d			25d	20d

※許容応力度計算、許容応力度等計算、その他構造計算を要さない小規模建築物の場合は、梁主筋の柱への定着は40dとする。

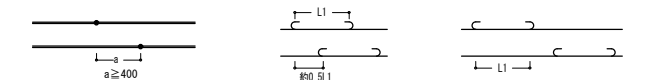
### 継手

1. 末端のフックは、定着及び重ね継手の長さに含まない。
2. 継手位置は、応力の小さい位置に設けることを原則とする。
3. 直径の異なる鉄筋の重ね継手長さは、細い方の鉄筋の継手長さとする。
4. D29以上の異形鉄筋は、原則として、重ね継手としてはならない。
5. 鉄筋径の差が7mmを超える場合は、圧接としてはならない。

### ガス圧接形状



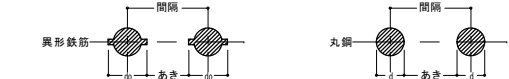
### 圧接継手



溶接金網の継手及び定着は、日本建築学会「鉄筋コンクリート造配筋指針・同解説(最新版)」による。

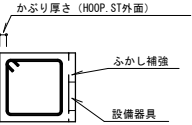
### (4) 鉄筋のあき

丸鋼では径、異形鉄筋では呼び名に用いた数値の1.5倍以上  
粗骨材の最大寸法の1.25倍以上かつ25以上  
鉄骨鉄筋コンクリート造の場合は、主筋と平行する鉄骨とのあきも同様とする。



## (5) かぶり厚さ

構造部分の種類		最小かぶり厚さ (mm)	設計かぶり厚さ (mm)
土に接しない部分	スラブ、耐力壁以外の壁	仕上がりあり 仕上がりなし	20 30
	柱、梁、耐力壁	仕上がりあり 仕上がりなし	30 40
	屋外	仕上がりあり 仕上がりなし	30 40
	擁壁、耐圧スラブ	仕上がりあり 仕上がりなし	40 50
土に接する部分	柱、梁、スラブ、壁		40
	基礎、擁壁、耐圧スラブ		60
	煙突等高熱を受ける部分		60

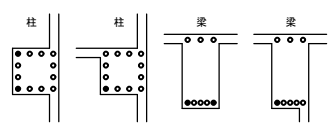


- (注) 1. 軽量コンクリートの場合は、特記による。
2. 「仕上がりあり」とは、モルタル塗りなどの仕上がりのあるものとし、仕上塗材、吹付け又は塗装などの鉄筋の耐久上有効でない仕上りのものを除く。
3. 床版、梁、基礎及び擁壁で直接土に接する部分のかぶり厚さには、捨コンクリートの厚さを含まない。
4. 杭基礎の場合かぶり厚さは、杭先端からとする。
5. 塩害を受けるおそれのある部分等、耐久性上不利な箇所は、特記による。
6. 柱及び梁の主筋に異形鉄筋(D29以上)を使用する場合は、主筋のかぶり厚さは、径の1.5倍以上として最小かぶり厚さを定める。
7. 柱、梁等の鉄筋の加工に用いるかぶり厚さは、設計かぶり厚さに10mmを加えた数値を標準とする。
- なお、鉄筋組立後のかぶり厚さは、設計かぶり厚さ以上とする。
8. かぶり部分に埋め込まれる設備器具等による欠損断面が大きい場合は、係員の指示を受け、ふかし等で補強を行う。

## (6) 鉄筋のフック (1～5に示す鉄筋の末端部にはフックを付ける。)

1. 丸鋼
2. 肋筋、帯筋、幅止筋
3. 煙突の鉄筋(壁の一部となる場合を含む)
4. 柱、梁(基礎梁を除く)の出隅部分の鉄筋(右図参照)
5. 単純梁の下端筋
6. その他、本配筋基準に記載する箇所

図の●印の鉄筋の重ね継手の末端にはフックが必要



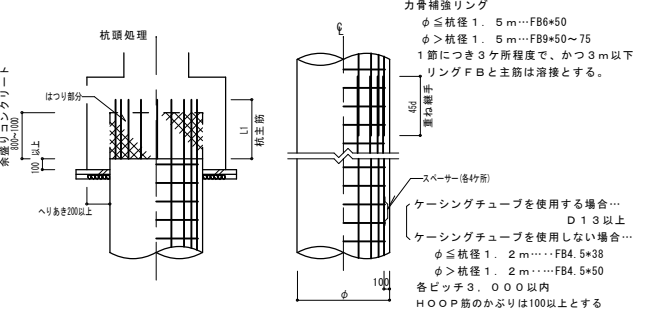
## 3. 杭 (地震力等の水平力を考慮して、別途検討すること)

### (1) PRC杭、又はPHC杭の全てに補強を行う

所定位置に止まった場合		所定より低く止まった場合	
補強筋		補強筋	
コンクリート止め材		コンクリート止め材	
杭径		D10～100φ	
補強筋		D10～100φ	
HOOP		D10～100φ	

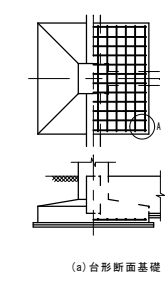
(注) 杭頭にひび割れが発生した場合は、監理者の指示による。

### (2) 現場打ちコンクリート杭

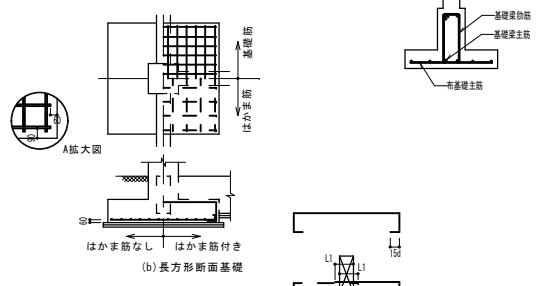


## 4. 基礎

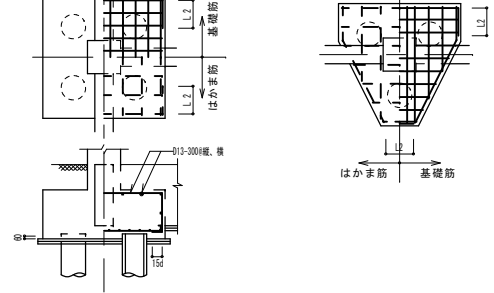
### (1) 直接基礎(独立基礎)



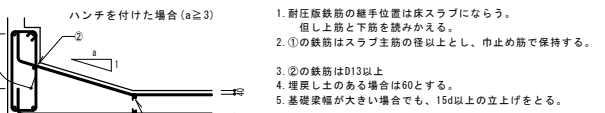
### (2) 直接基礎(連続基礎)



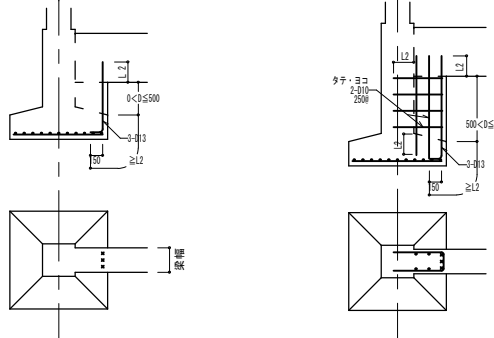
## (3) 杭基礎



## (4) べた基礎



## (5) 基礎接合部の補強



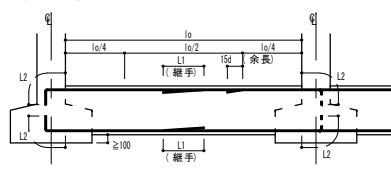
## 5. 柱、梁増打コンクリート補強

(事前に設計者及び工事監理者と協議を必ず行うこと)

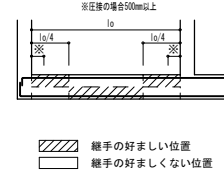
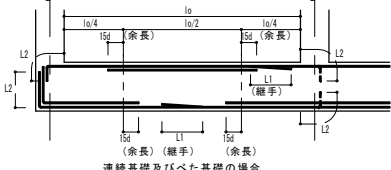
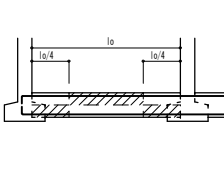
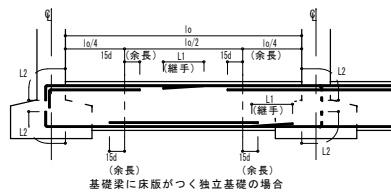
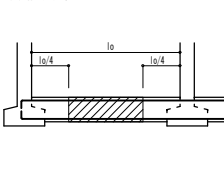
・配筋要領は、特記による。

## 6. 地中梁

### (1) 継手、定着



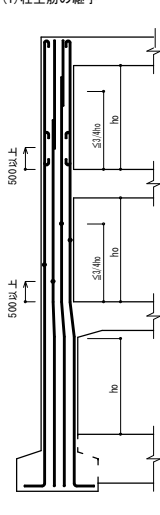
### (2) 継手位置



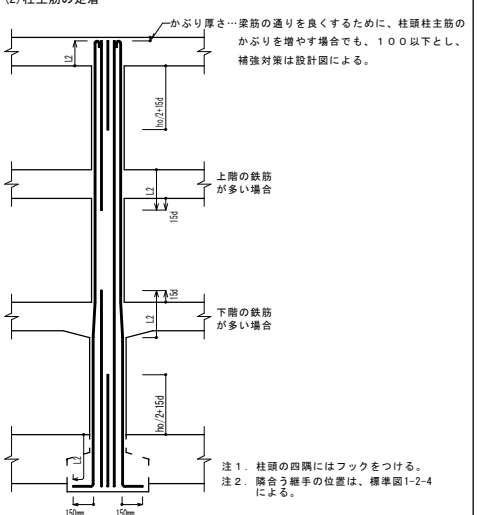
- (注) 1. 上端主筋の定着は、やむを得ない場合、上向きとすることができる。
2. 梁筋は、原則として柱をまたいで引き通すものとし、引き通すことができない場合は柱内に定着する。但し、やむを得ず梁内に定着する場合は、右図とする。
3. 梁筋を柱内に定着する場合は、梁筋は柱の中心軸を越えてから定着する。
4. あばら筋は、8-(4)による。但し梁成が1.5m以上の場合は、下図によることができる。

## 7. 柱

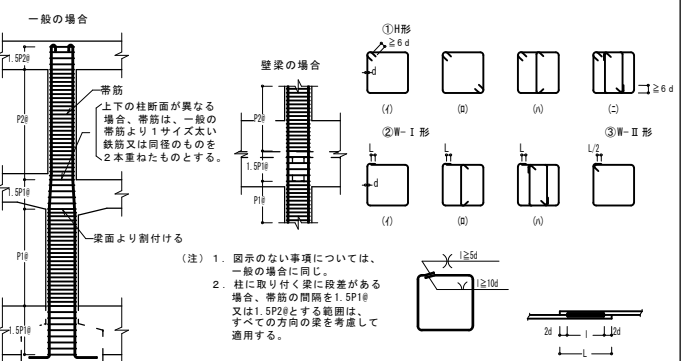
### (1) 柱主筋の継手



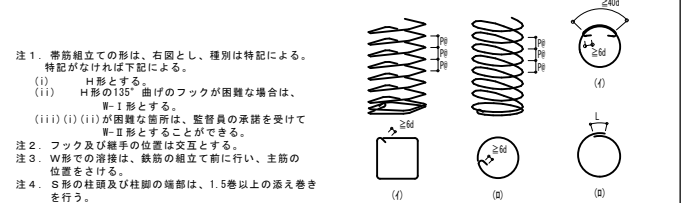
### (2) 柱主筋の定着



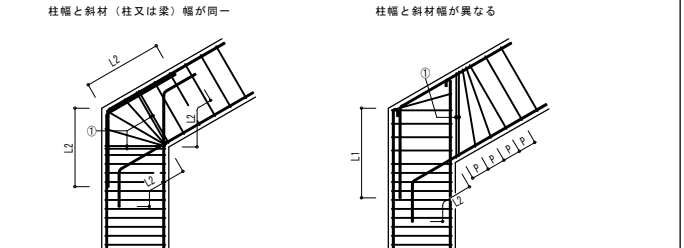
## (3) 帯筋



## (4) S形(スパイラル筋)



## (4) 斜め柱・斜め梁



製図 管理技術者 審査 承認

株式会社 ワシツ設計

一級建築士事務所 新潟県知事登録(ツ)第 495 号  
一級建築士 第 361707 号 管理建築士 齋田 知恵郎

構造設計 泉 俊正  
一級建築士 第 155568 号  
構造設計一級建築士 第 5387 号

設備設計 本間 光  
一級建築士 第 288913 号  
設備設計一級建築士 第 1538 号

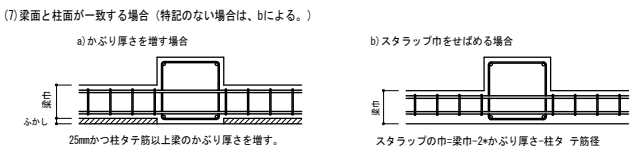
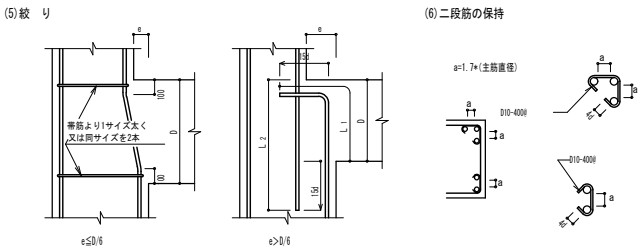
CLASS DATE SCALE No.

A-276 R5.03 A1: NS A3: NS 2 S

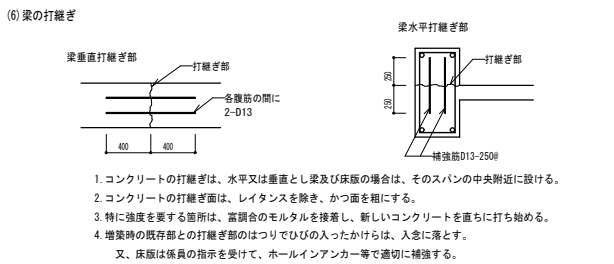
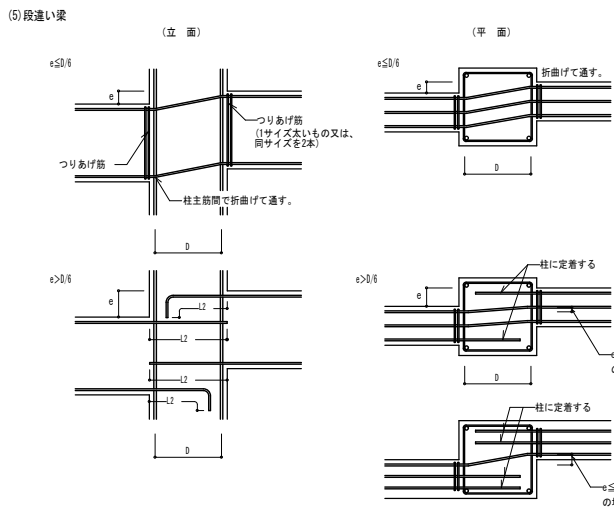
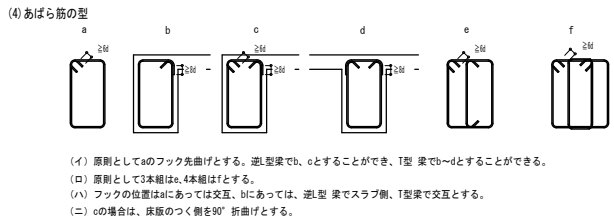
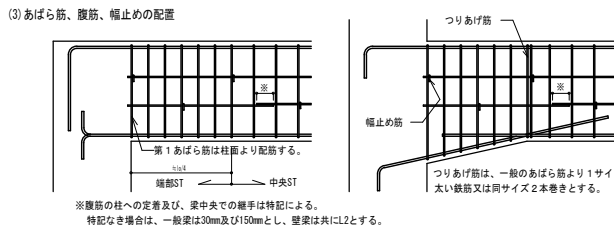
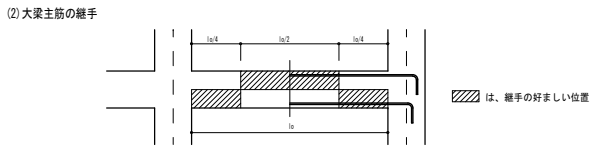
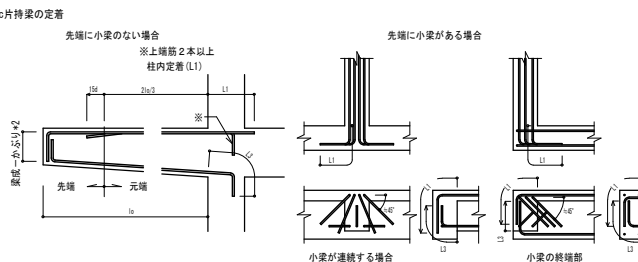
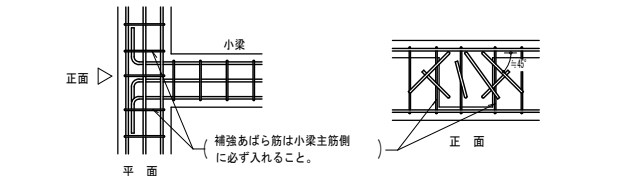
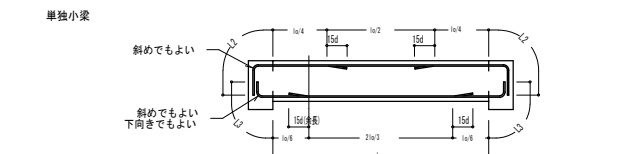
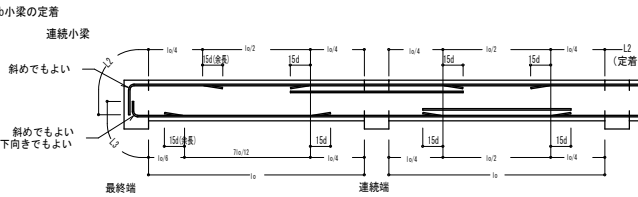
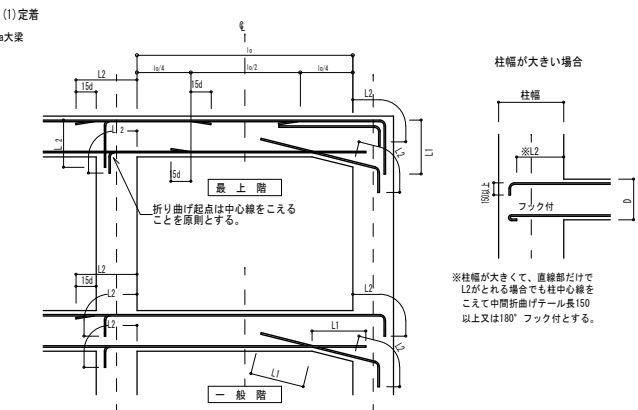
工事名称 総合支援学校教職員室等増築工事

図面名称 鉄筋コンクリート構造配筋標準図 (1)

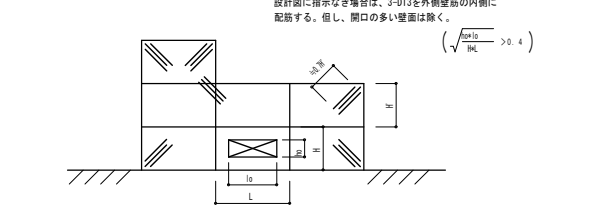
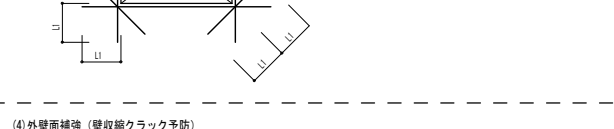
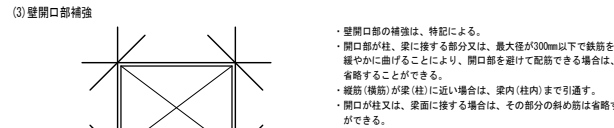
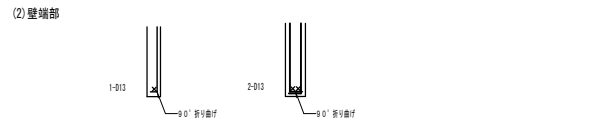
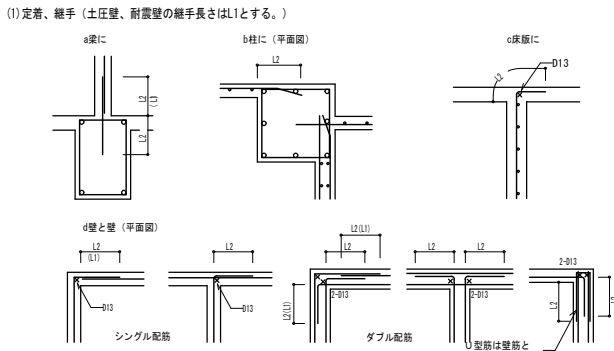
## 鉄筋コンクリート構造配筋標準図 2



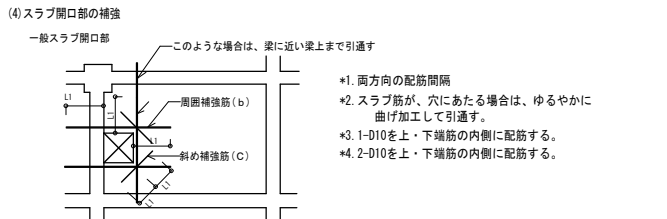
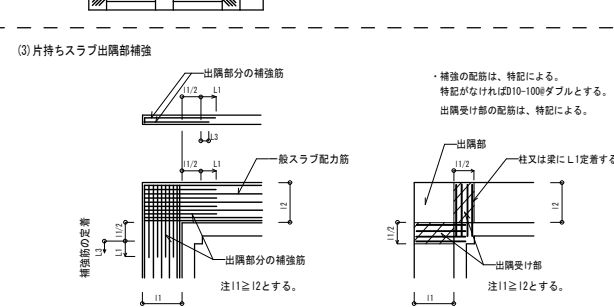
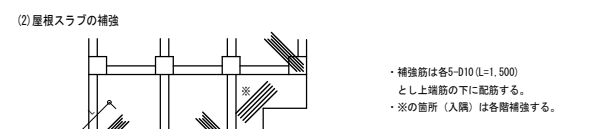
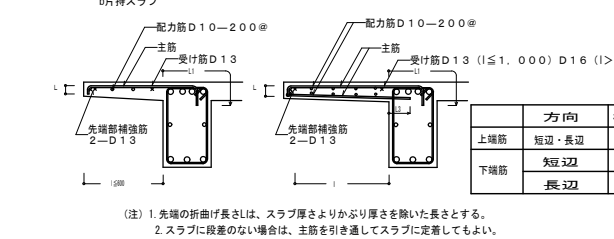
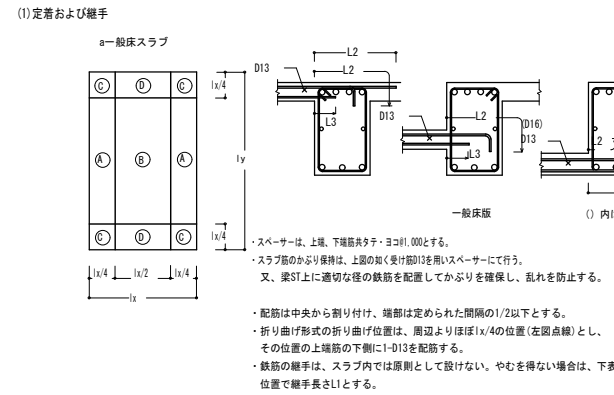
## 8. 大梁、小梁、片持梁



9. 壁



## 10. スラブ



開口寸法 (a)	周周補強筋 (b)	斜め補強筋 (C)
$a \leq *1$	——(*2)	——
$*1 < a \leq 400$	2-D13	2-D10 (*3)
$400 < a \leq 700$	4-φ13かつ開口によって けられる鉄筋量以上	4-D10 (*4)
$700 < a$	係員の指示による	

設備配管部

注1. 設備の小開口が連続してある場合は、全体の穴を1つの開口にして上表を適用すると共に、開口によって切られる鉄筋以上を小開口の両わりに補強する。

2. 穴の間隔は、下図とする。

大きい穴外径の1.5倍以上かつ120以上

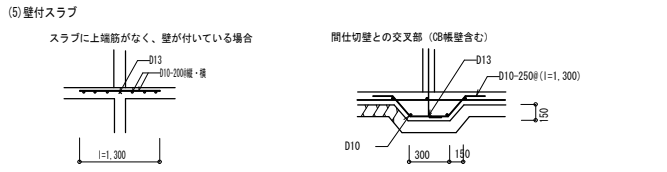
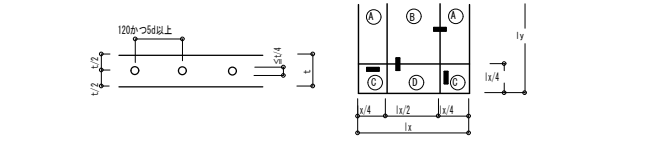
3. 床スラブ内に埋込む設備配管は、スラブ厚の1/4以下とし、スラブ中央に配置する。

4. 上記管の交差は、極力避ける。又、管が並行して埋込まれる場合は、120mm以上かつ管径の5倍以上のピッチとする。

5. スラブ下地に取り付けける設備用エンカベ等

■は、コート又は、スラブ厚より厚さ1/4の位置(下図点線)とし、その向きは、短・長辺各主筋方向とする。

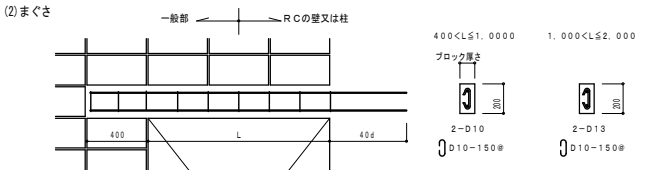
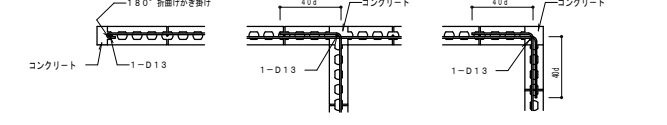
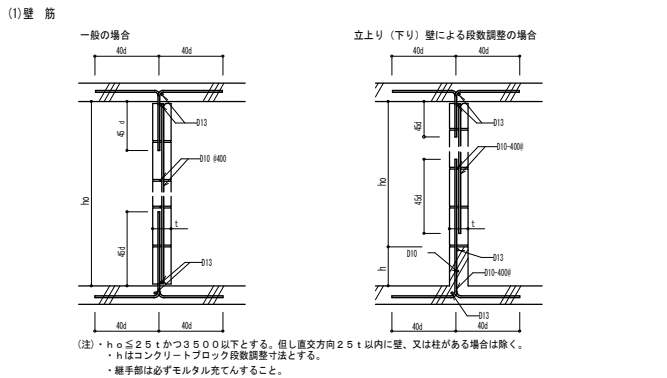
6. スラブ端部(梁面から500程度)では、原則として、梁と平行な管の配置は避けること。



(6) 打ち継ぎ補強(ダメ穴打ち断面について)

- ・設計配筋間隔の1/2ピッチ、長さ=2xL1以上
- ・無筋部分D10-200@、長さ=800以上

### 11. コンクリートブロック塀壁（内壁）



工事名称  
総合支援学校職員室等増築工事

図面名称  
鉄骨構造標準図 (1)

## 鉄骨構造標準図 2

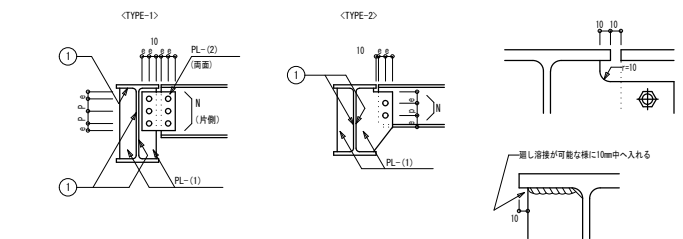
### 3. 継手規準図、その他

(1) 高力ボルト、ボルト、アンカーボルトのピッチ

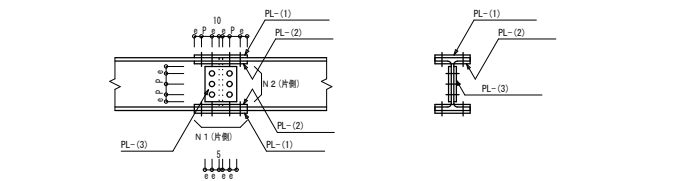
呼び出し		ボルト穴	最小埋埋深				ピン	
			(1)	(2)	(3)	(2) (3) の平均	最小	標準
M16		18	40	28	22	40	40	60
M20		22	50	34	26	40	50	60
M22		24	55	38	28	40	55	60
M24		26	60	44	32	48	60	70
ボルト穴 センター からボルト 中心までの 距離	M16	2(16.5)		28	22	(40)	(40)	(60)
	M20	25(20.5)		34	26	(40)	(50)	(60)
	M22	27(22.5)		38	28	(40)	(55)	(60)
	M24	29(24.5)		44	32	(48)	(60)	(70)
	M27	32		49	36			
	M30	35		54	40			
M3以上		呼び出し+5	94/5		44/3			

注) (1) 引張材の接合部で応力方向にボルトが3本以上並ばない場合の応力方向の縁端距離  
(2) せん断縁・手動ガス切断縁の場合の縁端距離  
(3) 圧延縁・自動ガス切断縁・のこ引き縁・機械仕上縁の場合の縁端距離

## (2) ピン接合梁継手リスト

[illegible]

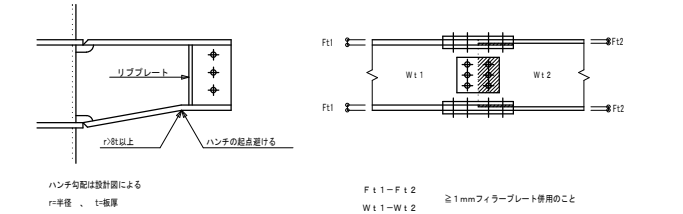
### (3) 剛接合梁継手リスト



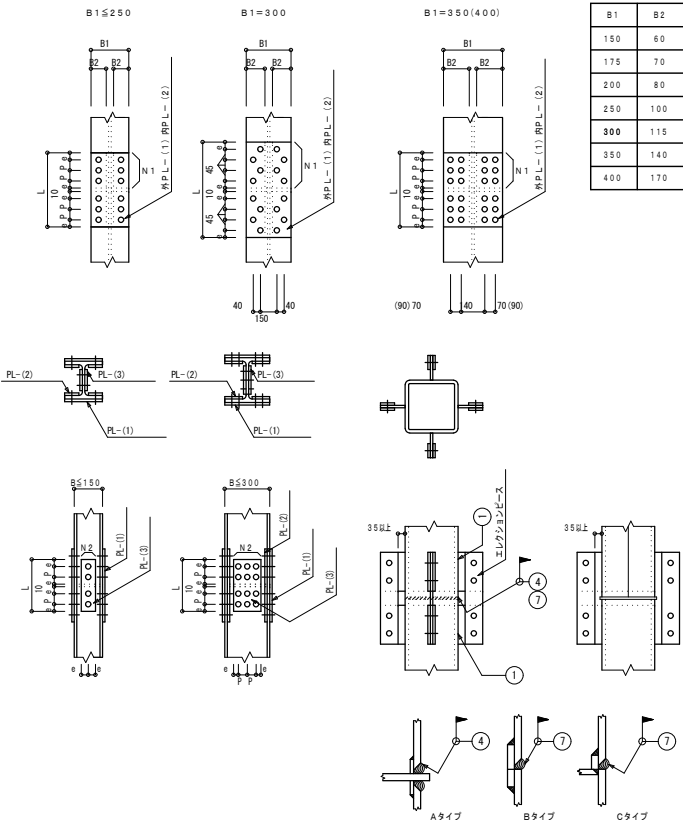
注) 端部をBHとする場合の部材は設計図による

符 号	部 材	フ ラ ン ジ			ウ ェ ブ	
		ＰＬ－（１）	ＰＬ－（２）	Ｎ１－径	ＰＬ－（３）	Ｎ２－径
鉄骨部材リスト及び鉄骨詳細図参照						

(4) ハンチ部の継手等



(5) 柱継手リスト



注)現場溶接は原則として超音波探傷試験を100%行う

符 号	部 材	フランジ			ウェブ	
		PL- (1)	PL- (2)	N1-径	PL- (3)	N2-径
鉄骨部材リスト及び鉄骨詳細図参照						

(6)鉄筋ブレース

(JIS規格品とする・・・JIS A5540\_1982/JIS A5541.5542\_2003)

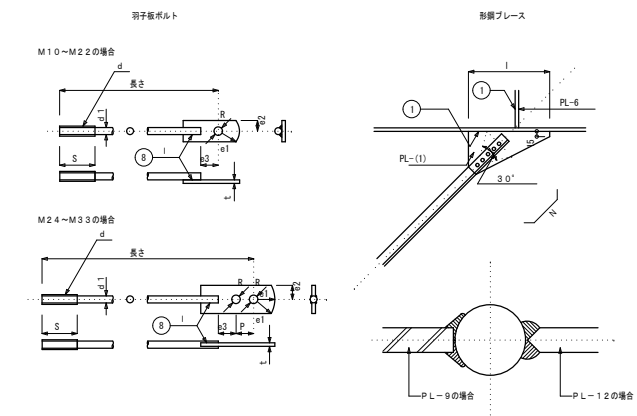
(a) 羽子板ボルト

ねじの呼び(φ)		M12	M14	M16	M18	M20	M22	M24	
軸径 d1	最 大	10.81	12.65	14.65	16.33	18.33	20.33	21.99	
	最 小	10.64	12.46	14.46	16.11	18.11	20.11	21.77	
貫通穴の長さ		S	100	115	125	140	150	165	175
取付ボルト穴径 +0, -0.5mm		R	13	17	17	21.5	21.5	23.5	21.5
はしあき (最小)		(2) e1	35	40	45	50	50	55	50
切 取 製	へりあき (最小) (1) e2	e2	22	28	28	34	34	38	38
	板 厚 t	t	4.5	6	6	9	9	9	9
平 頭 製	へりあき (最小) (1) e2	e2	19	25	25	32.5	32.5	37.5	37.5
	板 厚 t	t	4.5	6	6	9	9	9	9
ボルト頭から取付ボルト 穴心までの長さ (最小)		e3	47	52	59	66	66	73	70
取付長さ (最小)		l	40	50	55	60	75	85	85
(2) 取付ボルト	種 類		JIS B 1186		2階層力ボルト(F10T)				
	ねじの呼び		M12	M16	M18	M20	M20	M22	M20
	本 数		1	1	1	1	1	1	2

(2) 羽子板とガセットプレートの接合は表に示す取付ホルトを使用し、一面せん断(支圧)接合とする

(b) 形鋼ブレース

符 号	部 材	P L - ( 1 )	N - 係	1
	鉄骨部材リスト及び鉄骨詳細図参照			



(7) 頭付きスタッド (JIS B1198)

スタッド材の標準形状・寸法

形状		ス タ ッ ド 材				
呼び名	軸径 d	外径 D	部高さ T	溶け代	溶接後長さ L	
φ13mm	13.0 ±0.3	22.0 ±0.4	10.0	4.0	70~150	
φ16mm	16.0 ±0.3	29.0 ±0.4	10.0	4.0	70~150	
φ19mm	19.0 ±0.4	32.0 ±0.4	11.0	5.0	70~150	
φ22mm	22.0 ±0.4	35.0 ±0.4	11.0	5.0	70~150	

# ハイベースNEO工法設計施工標準

(ハイベースNEO工法 Gタイプ は、S造及びCFT造に適用)

2016/4

大臣認定  
BCJ評定

MSTL-0040、0180 (Gタイプ用ベースプレート)  
MBLT-0042～0046 (アンカー用ボルトセット)  
BCJ評定-ST0058 (Gタイプ)  
BCJ評定-ST0059 (エコタイプ)

本工法的设计・施工は、鋼構造設計規程、鉄骨工事技術指針、建築工事標準仕様書 JASS 6 鉄骨工事、建築工事標準仕様書  
同解説 JASS 5 鉄筋コンクリート工事、およびハイベースNEO工法設計ハンドブックに準拠する。

## 設計

### 1. 材質

#### (1) ベースプレート・アンカーボルト・ナット・座金・定着板

エコタイプ (EB型式、EM型式、EH型式)

	ベースプレート	アンカーボルト	エコナット	ナット	座金	定着板
規格	JIS G3136	TMCP鋼	HAB (大臣認定取得材)	大臣認定取得材	JIS B1181 (六角ナット)	JIS G3106
ねじの種類	—	—	メートル並目	メートル並目	メートル並目	—
備考	SN490B 板厚40mm以下	SN490相当 板厚40mm超	降伏比 70%以下	—	強度区分5	SM490A

エコタイプのベースプレート上ナットはエコナットを使用する。

Gタイプ (GB型式、GM型式、GH型式)

	ベースプレート	アンカーボルト	ナット	座金	定着板
規格	HCW490b HCW490st (大臣認定取得材)	HAB (大臣認定取得材)	JIS B1181 (六角ナット)	JIS G3106	JIS G3101 (一般構造用 圧延鋼材)
ねじの種類	—	メートル並目	メートル並目	—	—
備考	SN490B同等	降伏比 70%以下	メートル並目	—	SM490A

※1 国土交通大臣認定 (MSTL-0040、0180) ※2 国土交通大臣認定 (MBLT-0042～0046)  
※3 M72は細目ねじ ※4 建築基準法第37条第二号に基づく国土交通大臣認定を取得した材料を使用

#### (2) ベースプレート下面のモルタル

後 結 末  
モ ル タ ル

ハイベース工法無収縮モルタルNX2000、又はクイック3

中 心 塗  
部分モルタル

○無収縮性モルタルパッド用 (固練り) 又は普通モルタル  
(NX2000及びクイック3は使用不可。専用のモルタルを使用のこと。)  
○強度はこれに接するコンクリートの強度以上

#### (3) 基礎・基礎ばり

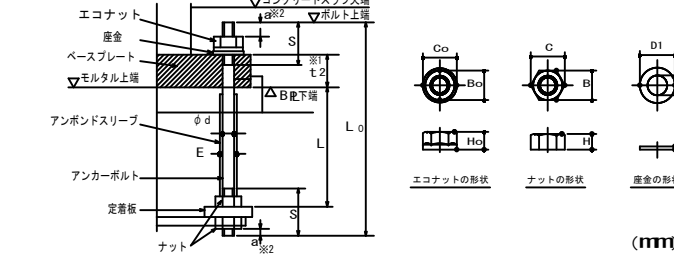
コンクリート

○日本建築学会「JASS 5 鉄筋コンクリート工事」に適合する普通コンクリート  
○設計基準強度は、 $f_c = 18 \sim 36 \text{ N/mm}^2$

鉄 筋 JIS G 3112「鉄筋コンクリート用棒鋼」に定められる、熱間圧延異形棒鋼

### 2. アンカーボルトのセット寸法

エコタイプ用アンカーボルト部品



ねじの呼び	アンカーボルト					テンション スリーブ	エコナット			ナット			座 金			
	軸	ねじ	余 余	全	外	高	二	対角	高	二	対角	厚	内	外		
	径	ピッチ	長さ	長さ	径	さ	面	距離	さ	面	距離	さ	径	径		
	φd	P	S	a	L	L	O	C	H	B	C	t <sub>w</sub>	φd1	φD1		
				※2												
M24	24	3	95	10	400	550	29	22	46	53	19	36	42	6	25	56
M30	30	3.5	110	13	480	580	35	27	50	58	24	46	53	6	31	60
M36	36	4	130	16	480	690	41	33	55	64	29	55	64	6	37	66
M42	42	4.5	155	18	840	1080	48	38	65	75	34	65	75	9	43	78

※1  $t_2$  はベースプレート台座厚さを示し、ハイベースNEO型式によって変わります。  
※2 a寸法は設置誤差を考慮した設計時の最小寸法です。  
施工時は、ねじ山が最低3山ナットの外に出るように余長を確保してください。  
※3 上段はGB型式及びGM型式のアンカーボルト4本タイプ、下段はそれ以外のエコタイプの場合の寸法です。

・エコタイプのアンカーボルトはシングルナットとしておりますので、ゆるみ止め処置としてコンクリートスラブで被覆してください。  
・コンクリートによる被覆を行わない場合は、二重ナット等のゆるみ止め処置が必要です。  
・場合、せん断耐力が変わる可能性がありますのでセンクシアにご相談ください。  
・アンカーボルト上部には必ずエコナットを使用してください。通常のナットでは所定の性能が発揮できません。

### センクシア株式会社

本社 TEL 03-3615-5432 関東 TEL 027-322-9411  
札幌 TEL 011-708-1177 横浜 TEL 045-548-9881  
東北 TEL 022-213-5595 中部 TEL 052-582-3356

URL <https://www.senqcia.co.jp/>

北陸 TEL 076-233-5260 九州 TEL 092-452-0341  
関西 TEL 06-6395-2133 中国 TEL 082-240-1630

## 工場加工

### 1. 溶接材料

被覆アーク溶接	低水素系 490N/mm <sup>2</sup> 級高張力鋼用 (JIS Z3212 D5016相当以上)
ガスシールドアーク溶接	軟鋼及び490N/mm <sup>2</sup> 級高張力鋼用マグ溶接用ソリッドワイヤ (JIS Z3312 YGW11相当)

### 2. ベースプレートの鉄骨柱への取付け (柱端部に開先を設ける)

※ 柱とベースプレートの溶接は完全溶込み溶接  
開先はMC-TLB-1、GC-TLB-1による ※開先形状は参考

ベースプレート形状	開先形状
角形鋼管柱用 (EB型式) アンカーボルト 4本タイプ アンカーボルト 8本タイプ	円形鋼管柱用 (EM型式) アンカーボルト 4本タイプ アンカーボルト 8本タイプ H形柱用 (EH型式)

ベースプレート形状	開先形状
角形鋼管柱用 (GB型式) アンカーボルト 4本タイプ アンカーボルト 8本タイプ	円形鋼管柱用 (GM型式) アンカーボルト 4本タイプ アンカーボルト 8本タイプ H形柱用 (GH型式)

### 3. 組立溶接

角形鋼管	円形鋼管	H形	角形鋼管	円形鋼管	H形
組立溶接 柱フランジ	組立溶接	組立溶接	1 対辺ごとに溶接を行う。 (自動ロボット溶接の場合はこれによらない)	2 1パスごとに全周溶接を行う。	(1) ウェブの両面すみ肉溶接 (曲げ負荷の場合は、完全溶込み溶接とする) (2) 開先部の溶接

### 5. 溶接施工一般

予 熱	鋼材の種類、板厚により必要に応じて適切な予熱を行う。
余 盛	溶接余盛はベースプレート側A点から柱側B点へ向かってなめらかになるように施工する。 余盛高さは、柱接合突出部形状に対応し突き合わせ継手またはT継手余盛り高さに準拠する (Gタイプ)。
H形柱の溶接	エンドタブの取付とH形柱ウェブのすみ肉溶接

△注意 柱の溶接時にベースプレートとの組合せによってはベースプレートが溶接熱歪によって曲がる場合があります。

### 6. 検 査

方 法	溶接部の検査を行う場合は、超音波探傷検査による。 探傷は柱フランジ側から行う。
不良溶接部の補正	(1) 有害な欠陥のある溶接部は削除して再溶接する。 (2) 溶接部に割れの入った場合には、割れの入った両端から50mm以上、はつり取り再溶接する。

## 現場施工

(#) : センクシアの担当範囲

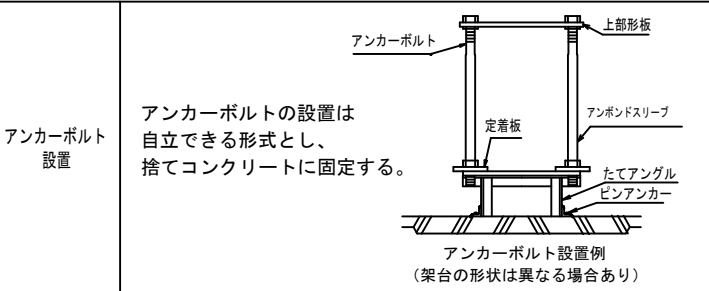
### 1. 捨てコンクリート打設

柱脚部の捨てコンクリートの厚さは90mm以上とし、表面は平滑に仕上げる。

### 2. 墨出し

### 3. アンカーボルト搬入 (#)

### 4. アンカーボルト据付 (#)

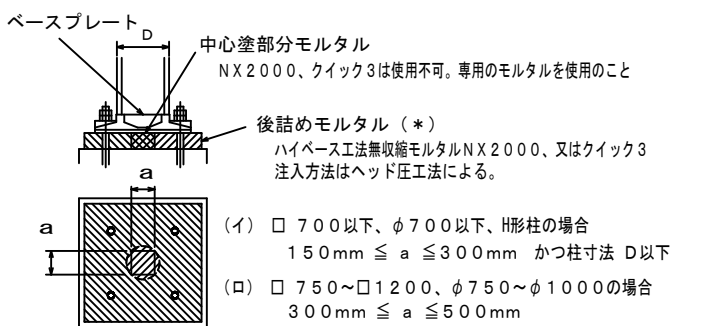


平 面	レ ベ ル
アンカーボルト設置精度の目標値 $e \leq 3 \text{ mm}$ (形板芯にて検査)	基準高さよりの誤差eh $-3 \text{ mm} \leq eh \leq 10 \text{ mm}$

### 5. 鉄筋配筋・型枠の立込み

### 6. 基礎コンクリート打設

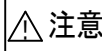
### 7. 中心塗り部分モルタル施工



中心塗り部分モルタル及び後詰めモルタルの養生  
基礎、基礎ばりコンクリートの強度以上となるよう養生期間を確保すること。

EB, GB, EM, GM, EH型式	GH型式
8. 鉄骨建方 アンカーボルト締付 アンカーボルトは隙間がないよう確実に締め付けを行う。	8. 鉄骨建方 9. モルタル注入枠設置 (#) 後詰めモルタル充填 (#)
9~10. モルタル注入枠設置 (#) 後詰めモルタル充填 (#) アンカーボルト締付確認 (#) ベースプレートと座金が密着していることを確認。	10. アンカーボルト締付 (#) 予備締め マーキング ナット回転法による本締め (30° 回転、許容差 $\pm 10^\circ$ )
11. モルタル注入枠取り外し	

施工完了後、ハイベースNEO工法のチェックシートに工事記録を記載する。



- アンカーボルトの設置、無収縮モルタルの充填、これらの施工は、センクシアが定めた認定業者が行うこと。(日本建築センターの評定で義務付けられています。)
- アンカーボルト及びナットは加熱、溶接、加工は絶対に行わないでください。
- 設置後のアンカーボルトのねじ部は打ちきざりやコンクリートが付着しないようにねじ部の保護養生をしてください。
- 建て入れ直し用のワイヤをアンカーボルトにとらないでください。
- 本資料以外の施工方法で行った場合、ハイベースNEOの性能が発揮できなくなります。

ハイベースNEO工法 各種寸法及び基礎柱形設計例 (Fc24の場合)  
〈角形鋼管柱用 □150～□550〉

(ハイベースNEO工法Gタイプは、S造及びCFT造に適用)  
(ハイベースNEO工法エコタイプは、S造に適用)

大臣認定  
BCJ評定

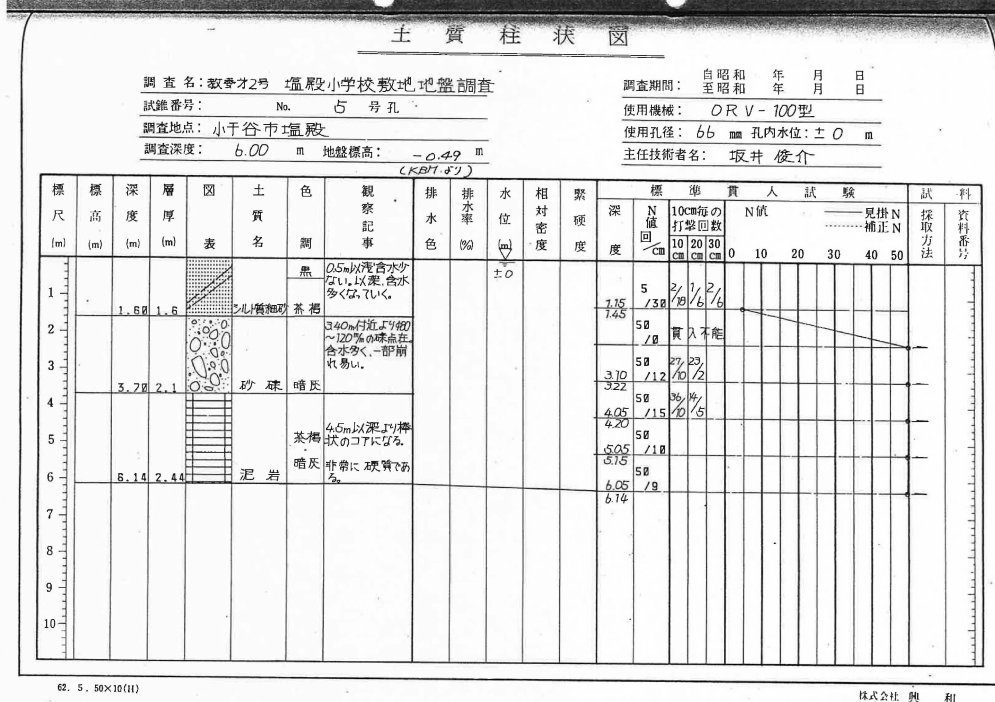
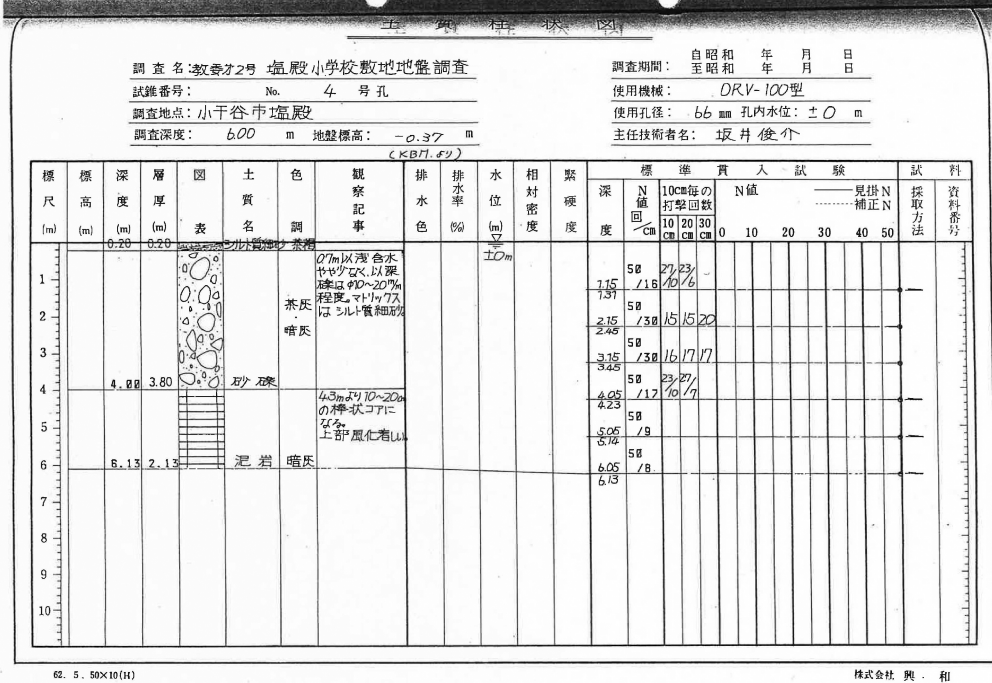
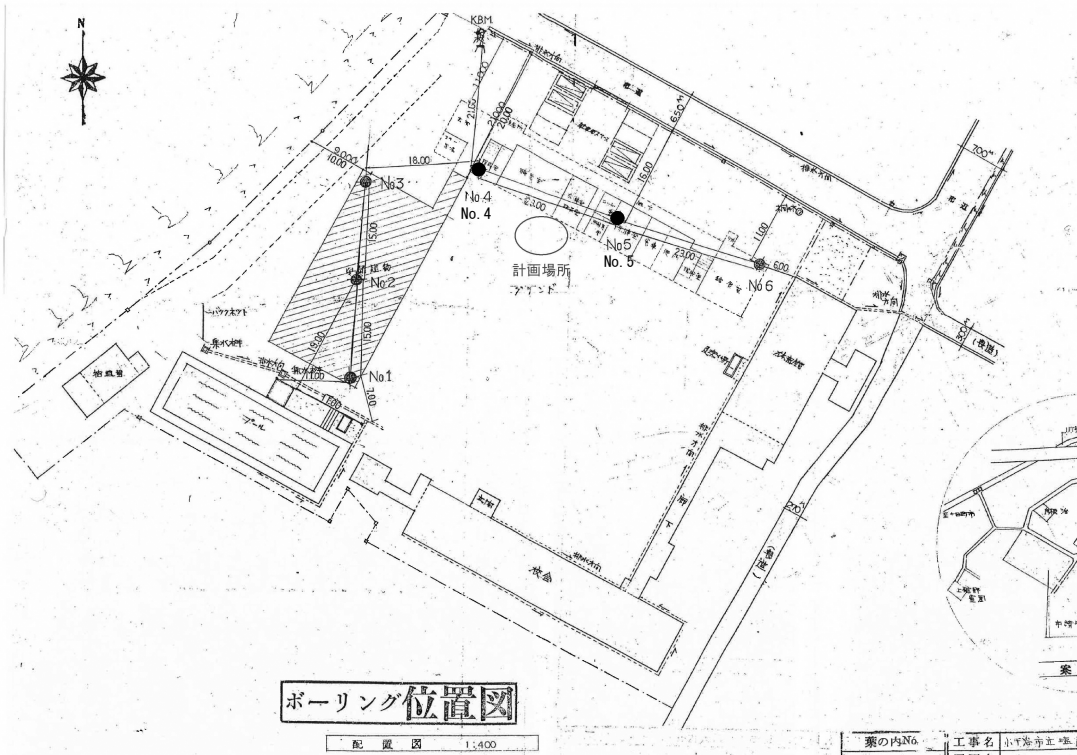
MSTL-0404、0180 (Gタイプ用ベースプレート)  
MBLT-0042～0046 (アンカーボルト)  
BCJ評定-S10058 (Gタイプ)  
BCJ評定-S10059 (エコタイプ)

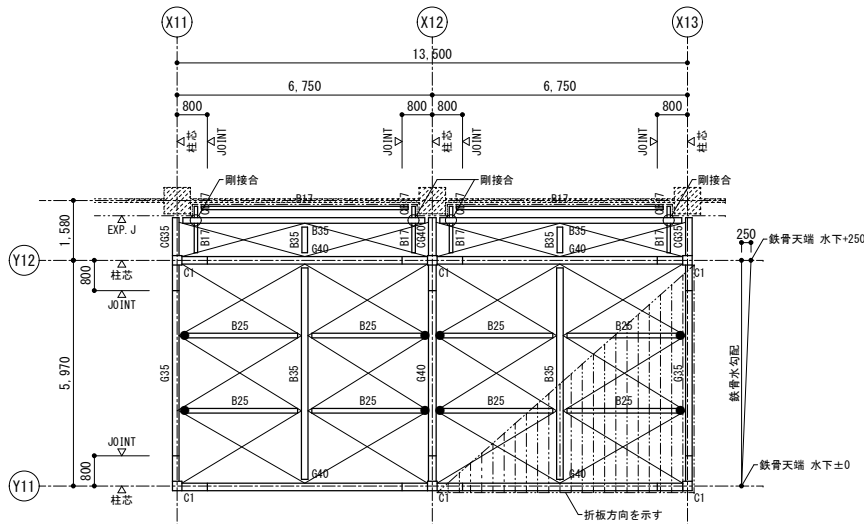
本工法の設計・施工は、鋼構造設計標準、鉄骨工事技術指針、建築工事標準仕様書 J A S 5 鉄骨工事、建築工事標準仕様書  
同解説 J A S 5 鉄筋コンクリート工事、およびハイベースNEO工法設計ハンドブックに準拠する。

2016/4

・ハイベースNEO工法  
(角形鋼管柱用□150～□550)

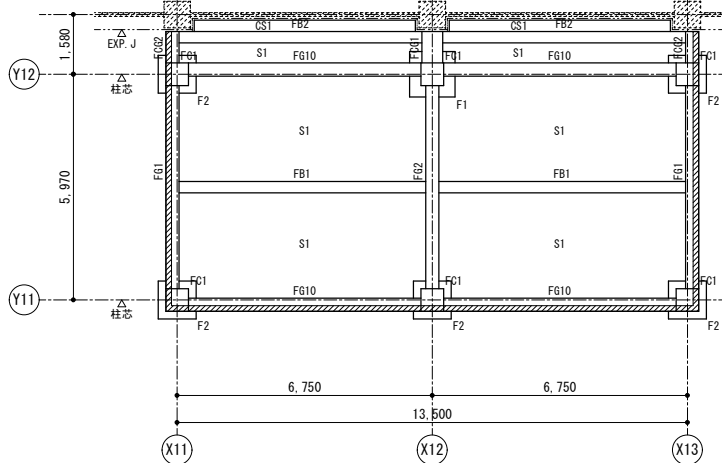
採用		適用柱		ハイベースNEO型式		アンカ ボルト	回転バネ 定数	寸法 (mm)								質量 (kg)			L (mm)	L1 (mm)	基礎天端～ 柱コンクリート 面		バネ11本 20本/1本		基礎柱形の設計例 (Fc24) < 側・隅柱用 >										基礎柱形の設計例 (Fc24) < 中柱用 (4方向から基礎梁が取り付く場合のみを示す。) >									
柱符号	数量	柱サイズ	板厚範囲	エコタイプ	Gタイプ			A	C1	C2	C3	E	F	H	t <sub>2</sub>	ベースプレート	部品	セット質量			h (mm)	hc (mm)	Ⅰゾーン			Ⅰゾーン			鉄筋の定着長さ Lt (mm)	Ⅰゾーン			Ⅰゾーン			鉄筋の定着長さ Lt (mm)								
								柱形 b (mm)	主筋量	帯筋	柱形 b (mm)	主筋量	帯筋	柱形 b (mm)	主筋量	帯筋	柱形 b (mm)	主筋量			帯筋																							
		□150	4.5～12	EB150-4-24		4-M4	14.0	290	210	—	—	—	—	25	17	14	31	400	80	550以上	120	500	8-D16	D13H150	500	16-D16	D13H150	210	500	8-D16	D13H150	500	16-D16	D13H150	210	500								
		□175	4.5～12	EB175-4-24		4-M4	17.9	310	230	—	—	—	—	25	19	14	33	400	80	600以上	120	520	8-D16	D13H150	520	16-D16	D13H150	200	520	8-D16	D13H150	520	16-D16	D13H150	200	520								
C1	6+7	□200	6～12	EB200-4	-24	4-M4	21.9	340	260	—	—	—	—	25	23	14	37	400	80	600以上	120	550	8-D16	D13H150	550	16-D16	D13H150	190	550	8-D16	D13H150	550	16-D16	D13H150	190	550								
					-30	4-M30	35.4	360	270					32	33	23	56	400	102	600以上	150	570	8-D19	D13H150	570	16-D19	D13H150	300	570	8-D19	D13H150	570	16-D19	D13H150	300	570								
					-36	4-M36	41.4	360	270					40	41	36	77	480	117	700以上	160	580	12-D19	D13H150	580	20-D19	D13H100	340	580	12-D19	D13H150	580	20-D19	D13H100	340	580								
					-24	4-M4	32.2	390	310					25	30	15	45	400	80	600以上	120	600	8-D19	D13H150	600	12-D19	D13H150	190	600	8-D19	D13H150	600	12-D19	D13H150	190	600								
		□250	6～16	EB250-4	-30	4-M30	51.3	410	320	—	—	—	—	32	43	23	66	400	102	600以上	150	610	8-D19	D13H150	610	16-D19	D13H150	280	610	8-D19	D13H150	610	16-D19	D13H150	280	610								
					-36	4-M36	59.7	410	320					40	53	36	89	480	117	700以上	160	610	12-D19	D13H150	610	20-D19	D13H100	330	610	12-D19	D13H150	610	20-D19	D13H100	330	610								
						8-M30	51.1	450	360					40	64	51	115	600	110	800以上	150	640	12-D22	D13H150	640	20-D22	D13H100	450	640	12-D22	D13H150	640	20-D22	D13H100	450	640								
						4-M30	70.1	460	370					32	54	24	78	400	102	600以上	150	660	8-D19	D13H150	660	16-D19	D13H150	270	660	8-D19	D13H150	660	16-D19	D13H150	270	660								
		□300	6～19	EB300-4	-36	4-M36	82.9	460	370	—	—	—	—	40	67	37	104	480	117	700以上	160	660	12-D19	D13H100	660	20-D19	D13H100	330	660	12-D19	D13H100	660	20-D19	D13H100	330	660								
					-30	8-M30	69.4	500	410					36	71	51	122	600	106	800以上	150	700	16-D22	D13H150	700	20-D22	D13H100	430	700	16-D22	D13H150	700	20-D22	D13H100	430	700								
					-36	8-M36	84.0	510	420					44	90	82	172	720	121	900以上	170	720	16-D25	D13H150	720	24-D25	D13H100	590	720	16-D25	D13H150	720	24-D25	D13H100	590	720								
						4-M30	93.1	510	420					32	66	24	90	400	102	600以上	150	710	8-D19	D13H100	710	16-D19	D13H100	240	710	8-D19	D13H100	710	16-D19	D13H100	240	710								
□350	9～22	EB350-8	-30	8-M30	89.5	550	460	290	—	—	—	—	36	86	52	138	600	106	800以上	150	750	16-D22	D13H150	750	20-D22	D13H150	470	750	16-D22	D13H150	750	20-D22	D13H150	470	750									
			-36	8-M36	105	560	470	270					40	99	83	182	720	117	900以上	160	770	16-D25	D13H150	770	24-D25	D13H100	560	770	16-D25	D13H150	770	24-D25	D13H100	560	770									
			-42	8-M42	133	590	480	260					48	132	131	263	840	138	1100以上	180	790	20-D25	D13H150	790	32-D25	D13H100	700	790	20-D25	D13H150	790	32-D25	D13H100	700	790									
				4-M42	128	550	440	75					50	107	72	179	840	145	1100以上	—	750	12-D25	D13H150	750	16-D25	D13H150	480	750	12-D25	D13H150	750	16-D25	D13H150	480	750									
	9～25	EB400-8	-48	4-M48	156	590	460	90	61	142	113	255	960	168	1200以上	—	790	12-D25	D13H150	790	20-D25	D13H150	580	790	12-D25	D13H150	790	20-D25	D13H150	580	790													
			-30	8-M30	150	540	450	280	55	28	77	52	129	600	95	800以上	—	740	16-D22	D13H150	740	20-D22	D13H150	470	740	16-D22	D13H150	740	20-D22	D13H150	470	740												
			-36	8-M36	188	560	470	270	65	36	95	83	178	720	116	900以上	—	770	16-D25	D13H150	770	24-D25	D13H100	560	770	16-D25	D13H150	770	24-D25	D13H100	560	770												
			-42	8-M42	216	590	480	260	70	45	118	131	249	840	140	1100以上	—	790	20-D25	D13H100	800	32-D25	D16H100	610	790	20-D25	D13H100	800	32-D25	D16H100	610	790												
	9～25	EB400-8	-30	8-M30	111	600	510	340	36	102	52	154	600	106	800以上	150	800	16-D22	D13H150	800	20-D22	D13H150	450	800	12-D22	D13H150	800	20-D22	D13H150	450	800													
			-36	8-M36	127	610	520	320	40	117	83	200	720	117	900以上	160	820	16-D25	D13H100	820	24-D25	D13H100	540	820	12-D25	D13H100	820	24-D25	D13H100	540	820													
			-42	8-M42	175	640	530	310	48	155	131	286	840	138	1100以上	180	840	20-D25	D13H100	840	32-D25	D13H100	700	840	20-D25	D13H100	840	32-D25	D13H100	700	840													
				4-M42	163	600	490	75	49	129	73	202	840	144	1100以上	—	810	12-D25	D13H100	810	16-D25	D13H100	400	810	12-D25	D13H100	810	16-D25	D13H100	400	810													
□400	9～32	GB400-4	-48	4-M48	194	640	510	85	59	165	114	279	960	166	1200以上	—	840	12-D25	D13H100	840	20-D25	D13H100	500	840	12-D25	D13H100	840	20-D25	D13H100	500	840													
			-36	8-M36	234	610	520	320	60	34	110	83	193	720	114	900以上	—	820	16-D25	D13H100	820	24-D25	D13H100	540	820	16-D25	D13H100	820	24-D25	D13H100	540	820												
			-42	8-M42	282	640	530	310	70	42	136	131	267	840	137	1100以上	—	840	20-D25	D13H100	850	32-D25	D16H100	600	840	20-D25	D13H100	850	32-D25	D16H100	600	840												
			-48	8-M48	321	680	550	300	80	52	176	211	387	960	159	1300以上	—	880	20-D29	D16H100	890	28-D29	D16H100	790	880	20-D29	D16H100	890	28-D29	D16H100	790	880												
	9～25	EB450-8	-36	8-M36	169	660	570	370	44	150	84	234	720	121	900以上	170	870	16-D25	D13H100	870	24-D25	D13H100	520	870	16-D25	D13H100	870	24-D25	D13H100	520	870													
			-42	8-M42	199	690	580	360	48	180	132	312	840	138	1100以上	180	890	24-D25	D13H100	890	32-D25	D13H100	680	890	20-D25	D13H100	890	32-D25	D13H100	680	890													
				4-M42	199	650	540	75	48	153	73	226	840	143	1100以上	—	860	12-D25	D13H100	860	16-D25	D13H100	390	860	12-D25	D13H100	860	16-D25	D13H100	390	860													
			-48	4-M48	236	690	560	85	58	192	116	308	960	165	1200以上	—	890	12-D25	D13H100	890	20-D25	D13H100	480	890	12-D25	D13H100	890	20-D25	D13H100	480	890													
	□450	9～36	GB450-8	-36	8-M36	296	660	570	370	60	32	130	84	214	720	112	900以上	—	870	16-D25	D13H100	870	24-D25	D13H100	520	870	16-D25	D13H100	870	24-D25	D13H100	520	870											
				-42	8-M42	348	690	580	360	65	40	158	132	290	840	135	1100以上	—	890	24-D25	D13H100	890	32-D25	D13H100	680	890	20-D25	D13H100	890	32-D25	D13H100	680	890											
				-48	8-M48	413	730	600	350	75	49	196	213	409	960	156	1300以上	—	930	20-D29	D16H100	940	28-D29	D16H100	770	930	20-D29	D16H100	940	28-D29	D16H100	770	930											
					8-M36	210	710	620	420	44	173	89	262	720	121	900以上	170	950	16-D25	D13H100	950	24-D25	D13H100	510	950	12-D25	D13H100	950	24-D25	D13H100	510	950												
9～28		EB500-8	-36	8-M36	238	740	630	410	48	207	133	340	840	138	1100以上	180	950	24-D25	D13H100	950	32-D25	D13H100	660	950	20-D25	D13H100	950	32-D25	D13H100	660	950													
			-42	12-M42	396	740	630	600	350	60	258	197	455	840	150	1100以上	190	950	28-D25	4-D16H100	1050	44-D25	4-D16H100	600	950	20-D25	4-D16H100	1050	44-D25	4-D16H100	600	950												
				4-M42	244	700	590	—	80	47	183	74	257	840	142	1100以上	—	910	12-D25	D13H100	910	16-D25	D13H100	390	910	12-D25	D13H100	910	16-D25	D13H100	390	910												
			-48	4-M48	290	7																																						





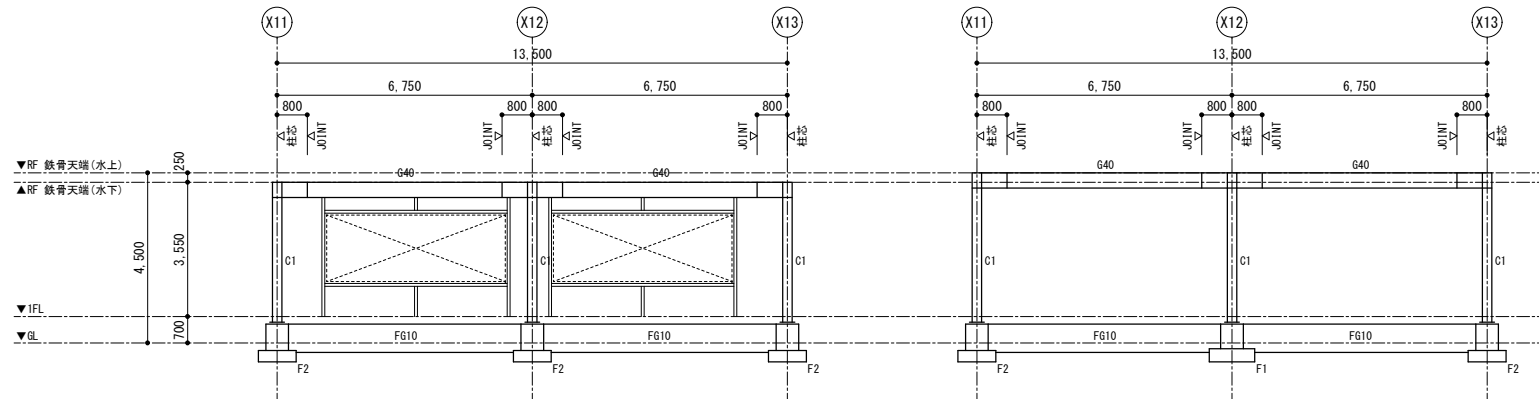
屋根伏図 1 : 100

特記なき限り下記とする。  
1. 大梁天端レベルは勾配なりとする。  
2. 屋根ブレースは特記なき限り HI とする。  
3. ●印は機械剛によるボルト変更箇所を示す。



基礎伏図 1 : 100

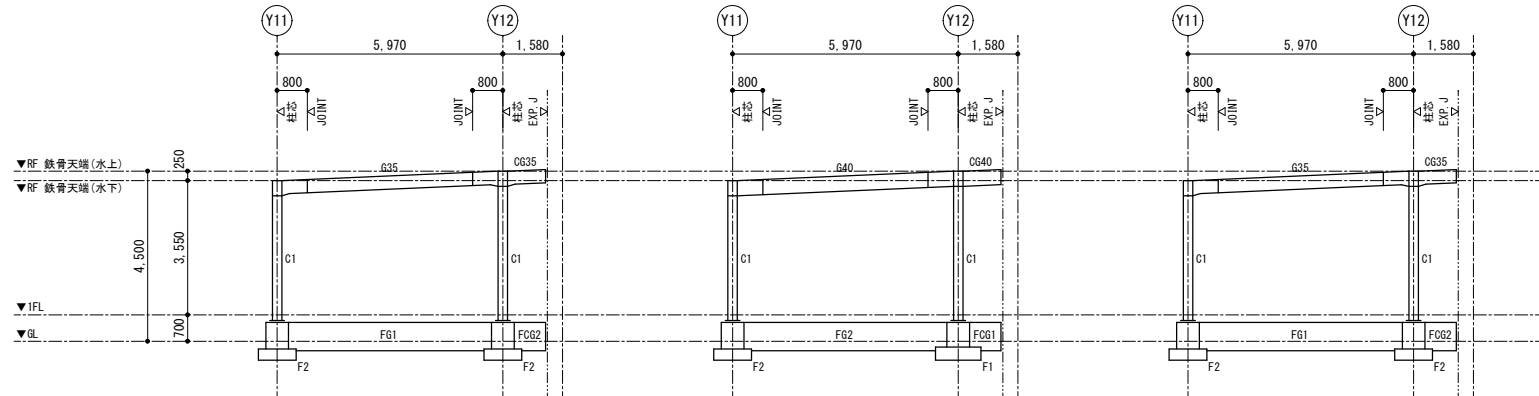
特記なき限り下記とする。  
1. スラブ天端レベルは 既存IFL±0 とする。  
2. 基礎梁天端は 既存IFL-200 (GL+500) とする。  
3. [2222] は立上り壁を示す。  
4. 基礎フーチング下端は GL-500 とする。  
5. 基礎下の粘土層は砂礫に置換改良とする。



Y11通り軸組図 1 : 100

Y12通り軸組図 1 : 100

特記なき開口補強材 ① L-75x75x6  
② L-75x75x9



X11通り軸組図 1 : 100

X12通り軸組図 1 : 100

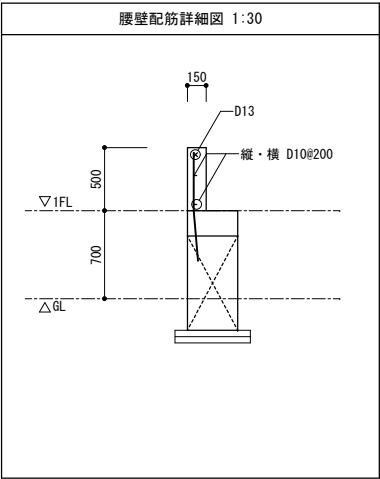
X13通り軸組図 1 : 100

地中梁リスト 1:30 特記事項 1. 鉄筋材質 主筋：SD345 スラップ・腹筋・巾止筋：SD295Aとする。2. 巾止め筋は D10 @1000 以内とする。

符 号	FG 1	FG 2	FG 10	FCG 1	FCG 2	大梁フカシ配筋
位 置	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	
BxD	350x750	350x750	350x750	550x750	350x750	
上端筋	3-D25	3-D25	3-D25	7-D25	3-D25	
下端筋	3-D25	4-D25	3-D25	7-D25	3-D25	
肋筋	□-D13@200	□-D13@200	□-D13@200	□-D13@200	□-D13@200	
腹筋	2-D13	2-D13	2-D13	2-D13	2-D13	
備考						

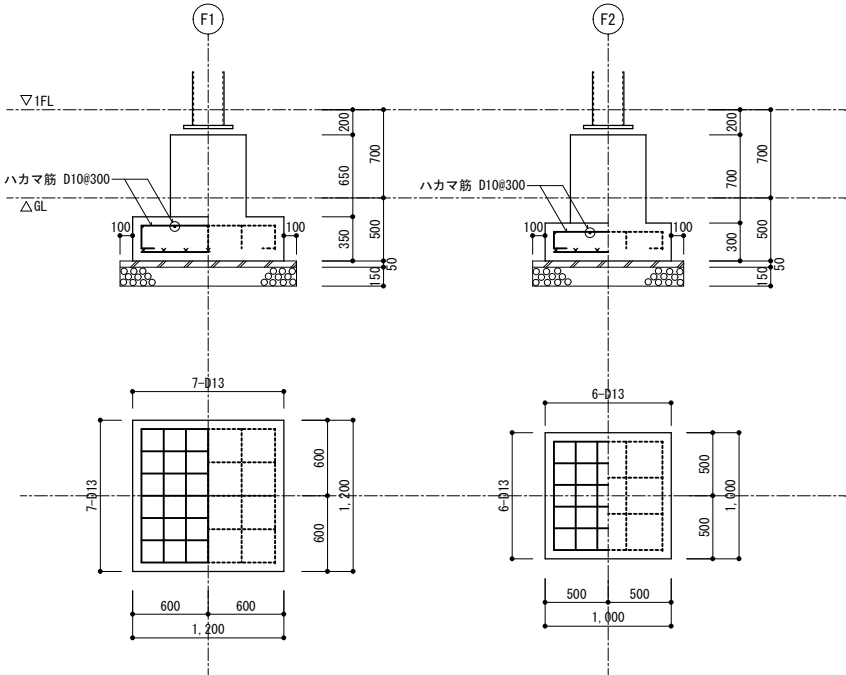
地中小梁リスト 1:30 特記事項 1. 鉄筋材質 主筋：SD345 スラップ・腹筋・巾止筋：SD295Aとする。2. 巾止め筋は D10 @1000 以内とする。

符 号	FB 1		FB 2	小梁フカシ配筋
位 置	外端・中央	内端	全断面	
BxD	300x600	300x600	300x500	
上端筋	3-D22	6-D22	3-D22	
下端筋	3-D22	6-D22	3-D22	
肋筋	□-D10@150	□-D10@150	□-D10@200	
腹筋	2-D10	2-D10	2-D10	
備考				



基礎リスト 1:30

長期許容支持力 500KN/m<sup>2</sup>（要載荷試験有り、基礎下粘土層（約1.0m）は砂礫に置換改良を行うこと。）



ス ラ ブ リ ス ト 1:30									
符 号	スラブ厚	位 置	短 辺 方 向			長 辺 方 向			備 考
			A 部	B 部	C 部	A 部	B 部	C 部	
S 1	150	上 端 筋	D10, D13 @200	←	←	D10 @200	←	←	スラブ下 クラッシューラン t=50
		下 端 筋	D10 @200	←	←	D10 @200	←	←	
CS 1	150	上 端 筋	D10, D13 @200	←	←	D10 @200	←	←	スラブ下 クラッシューラン t=50
		下 端 筋	D10 @200	←	←	D10 @200	←	←	

共通事項: 1. ボルトはHTB S10Tとする。2. 鉄骨材質はSN400Bとする。

階 数	符 号	位 置	全 断 面	継 手 符 号	仕 口	備 考
R	G40・G540	全断面	H-400x200x8x13	J1	—	
	G35・G635	全断面	H-350x175x7x11	J2	—	

共通事項: 1. 特記なき限り、継手スプライスプレートは母材と同材質にする。2. ボルトはHTB S10Tとする。3. 鉄骨材質はSN400Bとする。

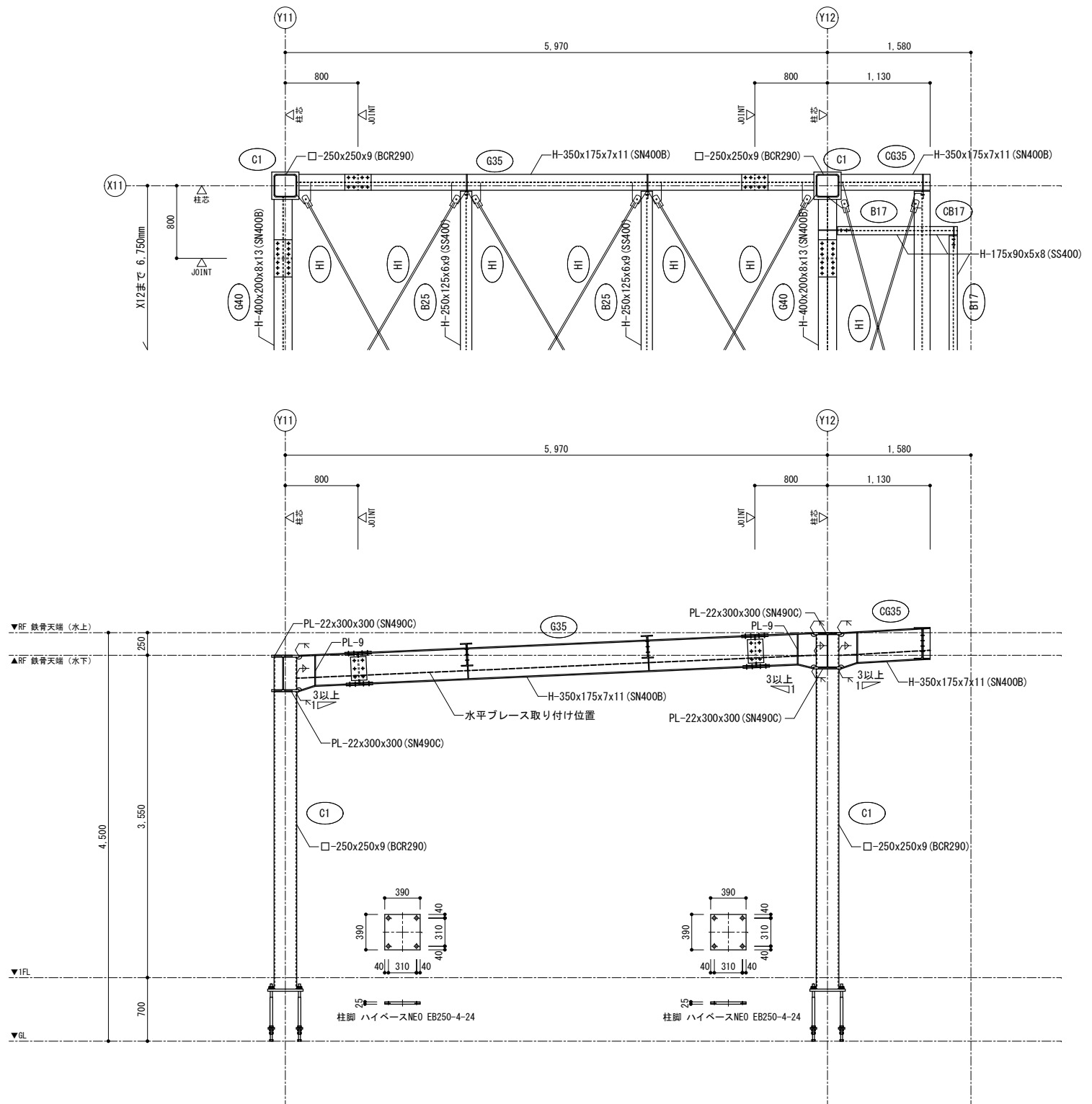
形 状	符 号	主 材	JOINT					備 考
			フランジ			ウェブ		
			T1	T2	N1	T3	N2	
	J1	H-400x200x8x13	SR-9x200x410	2SR-9x80x410	6-M20	2SR-9x170x260	4-M20	
	J2	H-350x175x7x11	SR-9x175x290	2SR-9x70x290	4-M20	2SR-6x170x260	3-M20	

共通事項: 1. ボルトはHTB S10Tとする。2. 鉄骨材質はSS400とする

符 号	部 材	継手 符号	仕 口	備 考
B35	H-350x175x7x11	—	GPL-9 4-M20	
B25	H-250x125x6x9	—	GPL-6 3-M16	●印箇所：GPL-9 3-M20
B17・CB17	H-175x90x5x8	—	GPL-6 2-M16	剛接合箇所あり
H1	M20 (SNR400B)	—	GPL-9 1-M20	ターンバックル付き JIS規格品
開口補強材	横材	L-75x75x6	—	GPL-6 2-M12 中ボルト
	縦材	L-75x75x9	—	GPL-6 2-M12 中ボルト

共通事項: 1. 鉄骨材質 柱 BCR295、通しダイアフラムSN490Cとする

	符 号	G1	
1	部 材	□-250×250×9	
	備 考		
柱 脚	断 面		
	べースプレート	ハイベースNEO ER250-4-24	
	アンカースト	4-M24	
	備 考		
基 礎 柱	符 号	FC1	立上り (フカシ)
	断 面		
	柱 筋	8-D19 (SD345)	8-D16
	フープ	□-D13#150 (SD295)	□-D10#100
	備 考	配筋ゾーン (Ⅰ)	(トップ D13 2重巻)



特記事項

1. 特記なき限り、通り芯=柱芯
2. 溶接記号番号は鉄骨構造標準図(Ⅰ) 2. 溶接規準図による
3. 特記なき鋼材はSS400を示す

# 構造設計特記仕様

※修正箇所は下線を引くこと。  
適用は ■ 印を記入する。

杭仕様				
杭仕様		杭施工結果報告書		
試験杭		( )有 ( )無 ( )打ち込み口載荷口孔壁測定口支持層確認		
杭径 (mm)	設計支持力 (kN)	杭の先端の深さ (m)	本数	特記事項

5. 鉄筋コンクリート工事		(施工方法等計画書)	本構造設計特記仕様はコンクリートの設計基準強度 (F <sub>c</sub> ) が30kN/m <sup>2</sup> 以下に適用し、鉄筋の材質はS503以下に適用する。
---------------	--	------------	--

- (1) コンクリート
- コンクリートはJIA A 5308に適合するJIS認定工場の製品とし、施工は標準欄に記載されている事項を除きJASS5による。
  - 耐久設計基準強度 F<sub>d</sub> (N/mm<sup>2</sup>) 短期18 ■標準24 □長期30 □超長期36
  - セメントは、JIS R 5210の普通ポルトランドセメントを標準とする。
  - 混合計画は、工事開始前に工事監督者の承認を得ること。

- 設計基準強度 21、24 N/mm<sup>2</sup> 単位水量 185 kg/m<sup>3</sup>以下 単位セメント量 270 kg/m<sup>3</sup>以上かつ450 kg/m<sup>3</sup>以下
- 水セメント比 65%以下 空気量 4、5%
- 寒中、暑中、その他特殊コンクリートの適用を受ける期間に当る場合は、調査、打ち込み、養生、管理方法など必要事項について、工事監督者の承認を得ること。
  - フレッシュコンクリートの塩化物質測定は、原則として工事現場で(財)国土開発技術研究センターの技術評価をうけた測定器を用いて行い、試験結果の記録及び測定器の表示部を一回の測定ごとに撮影した写真(カラー)を保管し承認を得る。測定検査の回数は、通常の場合、1日1回以上とし、1回の検査における測定試験は、同一試料から取り分けて3回行い、その平均値を試験値とする。
  - 構造体コンクリートについて現場の圧縮強度試験供試体 (JASS5 T-603) は、現場中養生、または現場封かん養生とし、採取は打ち込み区ごと、打ち込み日ごととする。また、打ち込み量が150m<sup>3</sup>をこえる場合は150m<sup>3</sup>ごとまたは、その端数ごとに1回を標準とする。1回に採取する供試体は、適当な間隔をおいた3台の運搬車からその必要本数を採取する。なお供試体の数量は特別指示なき場合は、1回当り6本以上とし、そのうち4週用に3本を用いる。
  - コンクリート打ち込み中及び打ち込み後5日間は、コンクリートの温度が2度を下下らないようにする。
  - 乾燥、振動等によって、コンクリートの凝結及び硬化が妨げられないように養生を行う。
  - ポンプ打ちコンクリートは、打ち込む位置にできるだけ近づけて垂直に打ち、コンクリートの自由落下高さは、コンクリートが分離しない範囲とする。ポンプ圧送に際しては、コンクリート圧送技士または同等以上の技能を有する者が従事すること。なお、打ち込み継続中における打継ぎ時間間隔の限度は、外気温が25℃未満の場合は15分0秒、25℃以上の場合は12分0秒以内とする。
  - 水は、JIS A5308 (レディーミクストコンクリート) の附属書3 (規定) [レディーミクストコンクリートの練混ぜに用いる水] による。

- (2) 鉄 筋
- 鉄筋は JIS G3112 の規格品を標準とする。施工は、標準欄に記載されている事項を除き、JASS5による。
  - 高強度せん断補強筋は、JIS G3137に規定されるD種1号適合品とする。
  - 鉄筋の加工寸法、形状、かぶり厚さ、鉄筋の継手位置、継手の重ね長さ、定着長さは「鉄筋コンクリート構造配筋標準図(1)(2)」による。また、「壁式鉄筋コンクリート構造配筋標準図(1)(2)」による。
  - 配筋にあたっては、日本建築学会「鉄筋コンクリート造配筋指針・解説(最新版)」「壁構造配筋指針(最新版)」を必ず参考にする。
  - 鉄筋継手等

鉄筋継手工法	継手の位置等の設計条件による仕様・等級				鉄筋の径
	(1)引張力最小部位	(2) (1)以外の部位※			
		A級	B級	S A級	
■重ね継手	■40d □35d □( )d				■D(16)以下
■ガス圧接継手	■告示1463号第2項各号	■			■D(19)以上
□溶接継手	□告示1463号第3項各号	□	□		□D( )以下
□機械式継手	□告示1463号第4項各号	□	□	□	□D( )以下

- ※ (1) 以外の部位に設ける継手は、平成12年告示1463号ただし書きに基づき、日本鉄筋手協会、日本建築センター等の認定・評定等を取得した継手工法の等級で、構造計算に当たっては「鉄筋継手使用基準(建築物の構造関係技術基準解説書2007)」によって検討した部材の条件・仕様によること。
- D19未満は、すべて重ね継手とする。
- 継手部分の施工要領は、日本鉄筋手協会「鉄筋継手工事標準仕様書(最新版)」による。(ガス圧接・溶接・機械式継手工事)
- 継手部分の検査方法 ・ 外観検査 ■有 □無 ・ 引張試験 □有 □無 ・ 超音波深部試験 ■有 □無
- ガス圧接部分の検査を超音波深部試験によって行う場合は、最初の数ロットについては引張試験も併用し、1回の試験は5本以上とする。(1ロットは同一作業班が同一日に作業した圧接箇所200箇所程度とする)
- 柱の帯筋 (H O O P) の加工方法は、■H型 (タガ型) □W型 (溶接型) □S型 (スパイラル型) とする。
- コンクリート及び鉄筋の試験は「建築物の工事における試験及び検査に関する東京都採取要綱」第4条の試験機関で行うこと。試験機関名 (都知事登録 号)
- 代行業者名とは、試験・検査に伴う業務を代行する者を言う。代行業者名

- (3) 型 枠
- 材料 合板厚12mmを標準とする。 ■施工 JASS5による。
  - 型枠存置期間

種類 部位 セメントの種類 存在期間の平均値 コンクリートの圧縮強度	せ き 板				支 柱			
	基礎、はり側、柱、壁		スラブ下、はり下		スラブ下		はり下	
	早強度ポルトランドセメント	普通ポルトランドセメント	早強度ポルトランドセメント	普通ポルトランドセメント	早強度ポルトランドセメント	普通ポルトランドセメント	早強度ポルトランドセメント	普通ポルトランドセメント
15℃以上	2	3	4	6	8	17	28	28
5℃~15℃	3	5	6	10	12	25	28	28
5℃未満	5	8	10	16	15	28	28	28
コンクリートの圧縮強度	5.0 N/mm <sup>2</sup>		設計基準強度の50%		設計基準強度の			
					85%		100%	

- 注) 1 片持ばり、底、スパン9.0m以上のはり下は、工事監督者の指示による。
- 注) 2 大ばりの支柱の盛りかえは行わない。また、その他のはりの場合も原則として行わない。
- 注) 3 支柱の盛りかえは、必ず直上層のコンクリート打ち後とする。
- 注) 4 盛りかえ後の支柱頂部には、厚い受版、角材または、これに代わるものを用く。
- 注) 5 支柱の盛りかえは、小ばりが終わってから、スラブを行う。一時に全部の支柱を取り払って、盛りかえをしてはならない。
- 注) 6 直上層に著しく大きい積載荷重がある場合には、支柱(大梁の支柱を除く)の盛りかえを行わないこと。
- 注) 7 支柱の盛りかえは、養生中のコンクリートに有害な影響をもたらすおそれのある振動または衝撃を与えないこと。
- 注) 8 上表以外のセメントを使用する場合は工事監督者の指示による。

## 6. 鉄骨工事 (施工方法等計画書)

- (1) 鉄骨工事は指示のない限り下記最新版による
- 日本建築学会「JASS6」「鉄骨精度測定指針」「鉄骨工事技術指針」 ■ 日本鋼構協協会「建築鉄骨工事施工指針」
  - 鉄骨製作管理技術者登録機構「実合せ継手の食い違い仕口のずれの検査・補強マニュアル」
- (2) 工事監督者の承認を必要とするもの
- 製作工場 ■製作要領書 ■工作図 ■施工計画書
  - 認定または登録工場 (大臣認定 □H ■M □R □J) グレード以上 都登録 □T1 □T2 □T3ランク)
  - 材料規格証明書※、または試験成績書
- ※日本鋼構協協会「建築構造用鋼材の品質証明ガイドライン」の規格証明方法、またはミルシートとする。
- 鋼材 ■高力ボルト ■特殊ボルト □鋼付スタッド
  - 社内検査表 □
- (3) 工事監督者が行う検査項目
- (■印以外の項目の検査結果については、工事監督者に報告すること)
- 現寸検査 ■組立・開先検査 ■製品検査 ■建方検査 ■材質検査 □テープ合わせ
- (4) 接合部の溶接は下記によること
- 平成12年建設告示第1464号第二号イ、ロ
  - 鉄造等の建築物の工事に関する東京都採取要綱 (建築構造設計指針第12章)
  - 日本建築学会「溶接工作規程・同解説I、II、III、IV、V、VI、VII、VIII、IX」
  - 日本建築学会「鉄骨工事技術指針・工場製作編、鉄骨工事技術指針・工事現場施工編」
- (5) 接合部の検査
- 溶接部の検査 (検査結果は後日工事監督者に報告すること)

検査箇所	検査方法	検査率又は検査数			備 考
		工場自主検査	第三者受入検査	工事監督者	
		100%	100%	100%	
■ 完全溶込溶接部 (実合せ溶接)	外観検査 (※)	100%	100%	100%	※平成12年建設告示第1464号第二号による (目視及び計測)
	超音波深部試験	100%	30%	30%	
	内質検査 (注)	%	%	%	
	□ 硬さ試験	%	%	%	
	□ 示温塗料塗布	%	%	%	
■ マクロ試験・その他	外観検査 (※)	100%	100%	100%	(注) 東京都の要領に基づき必要となる建築物の場合に実施する
	外観検査 (※)	100%	100%	100%	

第三者検査機関名 C I W-D 種以上認定検査事業者

第三者検査機関とは、建築主、工事監督者又は工事施工者が、受入検査を代行させるために自ら契約した検査会社をいう。

注1) 現場溶接部については原則として第三者検査機関による全数検査とし、外観検査、超音波深部検査を100%行うこと。

注2) 知事が定めた重大な不具合が発生した場合は、是正前に対応策を建築主事等に報告すること。

- 高力ボルトの検査(検査結果は後日工事監督者に報告すること)
- 軸力導入試験口要■否(部位: ) 高力ボルトすべり係数試験口要■否(部位: )
- 一次締め後にマーキングを行い、二次締め後そのずれを見て、再回り等の異常が無いことを確認する。
- トルシア型高力ボルトは二次締め後、ピンチールが破断していることを確認する。

(6) 防錆塗装

- 錆塗装の範囲は、高力ボルト接合の摩擦面及びコンクリートで被覆される以外の部分とする。 → 意匠図による。
- 錆止めペイントは、■JIS K5674 □ □ □
- 現場における高力ボルト接合部及び接合部の素地調査は入念に行い、塗装は工場塗装と同じ錆止めペイントを使用し2回塗りとする。
- 耐火被覆の材料 □ 塗装厚さについては、意匠図仕上表の耐火認定番号による。

- (7) 耐火被覆
- 建築設備の構造は、構造耐力上安全な構造方法を用いるものとする。
  - 建築設備の支持構造部及び緊結金物には、錆止め等、防錆のための有効な措置を講ずること。
  - 建築に設ける屋上からの突出する水櫃・煙突・その他これらに類するものは、風圧・地震力等に対して構造耐力上主要な部分に緊結され、安全であること。
  - 煙突は、鉄筋に対するコンクリートのかぶり厚さを5cm以上とし鉄筋コンクリート造とすること。
  - 設備管は、地震時等の建物変形に追随できること。また、地震時等に対して適切に支持されていること。
  - 設備機器の架台及び基礎については、風圧・地震力等に対して構造耐力上安全であること。
  - E V の駆動装置等は、構造体安全に緊結されていること。
  - 特別に外圧受貫通孔は原則として設けない。設ける場合は設計者の承認を得ること。
  - 床スラブ内に設備配管等を通込む場合はスラブ厚さの1/3以下とし管の間隔を管径の3倍以上かつ50cm以上を原則とする。 □

- (8) その他
- 諸官庁への届出書類は遅滞なく提出すること。 ■ 各工事において必要に応じて記録写真を取り保管すること。
  - 各試験の供試体は全般的試験機関または民間認定機関にて試験を行い監督者に報告すること。
  - 建築構造用冷間ロール成形角形鋼管 → J F E スチール株式会社同等品
  - 建築構造用冷間プレス成形角形鋼管 → J F E スチール株式会社同等品
  - 外法一定H形鋼 → J F E スチール株式会社同等品
  - 露出型弾性固定柱鋼工法 → センクシア株式会社
  - 高強度せん断補強筋 → 北越メタル株式会社同等品
  - 高強度炭素鋼補強筋 → 株式会社東亜精工同等品
  - 炭素鋼補強材 (スーパーハリーZ) → 同鋼株式会社同等品
  - 長岡地区生コン事業協同組合又は長岡市内大臣認定工場 → 株式会社スパンクリートコーポレーション同等品
  - 株式会社スパンクリートコーポレーション同等品
  - J F E 建材株式会社同等品
  - 日鉄建機株式会社同等品
  - 既製コンクリート杭 → 藤村クレステ株式会社同等品
  - 同鋼株式会社同等品
  - J S S 規格認定工場品 (JIS B 1220-2010)
  - 東京鉄鋼株式会社同等品
  - 東京鉄鋼株式会社同等品
  - 同鋼株式会社同等品
  - 同鋼株式会社同等品
  - 住宅性能表示制度 → 意匠図による。
  - 高力ボルト本物の検査及び鉄骨入庫検査は全数検査とし、必ず監督者へ書類として提出すること。
  - 合成スラブ構造デッキプレートの施工状況報告書及びチェックリストを必ず監督者へ書類として提出すること。
  - 機械式吊钩接合法の施工管理チェックシート必ず監督者へ書類として提出すること。
  - 鉄筋機械式定着工法の施工管理チェックシート必ず監督者へ書類として提出すること。
  - 設計書 H=300mm

- (9) 書類提出
- 工事の着手に先立ち下記計画書を監督職員及び工事監督者に提出し承諾を受け、報告書は各工事終了後に速やかに提出すること。
- 仮設計計画書 □ 山設計計画書・報告書 □ 平板載荷試験計画書・報告書 ■ 鉄筋設計計画書・報告書 ■ コンクリート配合計画書
  - コンクリート工事施工計画書・報告書 ■ 鉄筋工事施工計画書・報告書 ■ 型枠工事施工計画書・報告書 ■ 鉄骨工事製作要領書
  - 躯体施工図 ■ 鉄筋検査要領書 ■ 鉄骨工作図

## 0. 共通事項

- (1) 設計図面及び特記仕様書に記載されていない事項は下記の図書を適用する。
- 国土交通省大臣官房官庁営繕部監修公共建築工事標準仕様書 (建築工事編) 令和4年版 (以下仕様)
- 日本建築学会建築工事標準仕様書・同解説 JASS5・6 (2018年版) (以下JASS5・6)
- (但し、対応不可能なものについては2015年版としてよいが、設計者及び監理者と協議すること)
- (2) 設計図書優先順位=質問回答書>現場説明書>特記仕様書>設計図面>仕様>JASS5及びJASS6

## 1. 建築物の構造内容

- (1) 建築場所 新潟県小千谷市大字塩殿甲2144番地
- (2) 工事種別 □新築 ■別棟増築 □改築 □移転 □大規模修繕 □大規模模様替 □用途変更
- (3) 構造設計一級建築士の関与 □必要 ■必要としない
- 法第20条第一号 (高さ60m超)
- 法第20条第二号 (□RC造高さ20m超 □S造4階建以上 □W造高さ13m超 □その他)
- 注) 構造設計一級建築士の関与が義務づけられる建築物については解説書等を参照して確認すること
- (4) 構造種別
- 木造 (W) □補強コンクリートブロック造 (C B) ■鉄骨造 (S)
- 鉄筋コンクリート造 (R C) □壁式鉄筋コンクリート造 (W R C)
- 鉄骨鉄筋コンクリート造 (S R C) □壁式プレキャスト鉄筋コンクリート造 (W P R C)
- プレキャスト鉄筋コンクリート造 (P R C) □薄板軽量形鋼造 (スチールハウス)
- (5) 階 数
- 1 棟 学校 (総合支援学校 普通教室) 地下 階 地上 1 階 塔屋 階

- (6) 主要用途 学校 (総合支援学校 普通教室)
- (7) 屋上付属物
- 高気水櫃 k N □キュービクル k N □広告塔 □煙突 □室外機置場
- (8) 特別な荷重
- E V 11人乗 (□マシルームレス □ロープ式) □DW k N □ホイスト k N
- 倉庫積載床用 N/m<sup>2</sup> □受水槽 k N □クレーン 基
- (9) 付帯工事
- 門塙 □塙壁 □駐輪場 □駐車場 □機械式駐車場 □サイロ
- (10) 増築計画 □有 ( ) □無
- (11) 構造計算ルート
- 1 棟 学校 (総合支援学校) X 方向ルート 1-2 Y 方向ルート 1-2

## 2. 使用建築材料表・使用構造材料一覧表

(1) コンクリート (レディーミクストコンクリート JIS Q1001, JIS Q1011, JIS A5308)					
適用箇所	種類	設計基準強度 (F <sub>c</sub> ) =N/mm <sup>2</sup> 品質基準強度 (F <sub>q</sub> ) =N/mm <sup>2</sup>	スラブ cm以下	備考	
捨てコンクリート	■普通	■18□21□24□27□30□33□36□40	■15□21	スラブ許容差±2.5cm	
土間コンクリート	□普通	□18□21□24□27□30□33□36□40	□15□21	スラブ許容差±2.5cm	
基礎、基礎梁	■普通	□18■21□24□27□30□33□36□40	■18□21	スラブ許容差±2.5cm	
		□18□21■24□27□30□33□36□40			
柱、梁、床、壁	■普通、□軽量	□18■21□24□27□30□33□36□40	■18□21	スラブ許容差±2.5cm	
		□18□21■24□27□30□33□36□40			
デッキ上コンクリート	□普通、□軽量	□18□21□24□27□30□33□36□40	□18□21	スラブ許容差±2.5cm	
		□18□21□24□27□30□33□36□40			
細骨材の種類	■砂 □山砂 □人工 □				
粗骨材の種類	■砂利 □砕石 □人工 □				
水の区分	■水道水 □地下水 □工業用水 □回收水				
混和材料の種類 (JIS A 6204)	■A E減水剤 □高性能A E減水剤 □膨張剤				
呼び強度を保証する材齢、養生	材齢: ■28日 □56日 □91日 □				
	養生: ■現場封緘 ■現場水中 □標準 □				
計画供用期間の級=標準					
品質基準強度 (F <sub>q</sub> ) に土間コンクリート、捨てコンクリート及びラップルコンクリートは適用しない					
F <sub>q</sub> =M A X (F <sub>c</sub> , F <sub>d</sub> ) 混合管理強度は標比6.4、5による					

- (2) コンクリートブロック (□JIS A 5406)
- A種 □B種 □C種 厚□100 □120 □150 □190 使用箇所 ( )

異形鉄筋 (JIS G 3112)	種類	径	使用箇所	継手工法
	■SD295A □SD295B ■SD345 □SD390 □UHP7-7 □KSS785	D10~D16 D19~D22	床、STP、HOOP 主筋	■重ね継手 ■ガス圧接継手 □溶接継手 □機械式継手 □機械式定着 (032以上)
高強度せん断補強筋				大臣認定番号 大臣認定番号
丸鋼 (JIS G 3112)	■SR235			
溶接金網 (JIS G 3551)	□6φ-100x100 □6φ-150x150 □6φ-75x75 □D10 #200 □D10 #150		□QLデッキ □EZ, HYPER デッキ	

異形鉄筋 (JIS G 3112)	種類	径	使用箇所	継手工法
	■SD295A □SD295B ■SD345 □SD390 □UHP7-7 □KSS785	D10~D16 D19~D22	床、STP、HOOP 主筋	■重ね継手 ■ガス圧接継手 □溶接継手 □機械式継手 □機械式定着 (032以上)
高強度せん断補強筋				大臣認定番号 大臣認定番号
丸鋼 (JIS G 3112)	■SR235			
溶接金網 (JIS G 3551)	□6φ-100x100 □6φ-150x150 □6φ-75x75 □D10 #200 □D10 #150		□QLデッキ □EZ, HYPER デッキ	

異形鉄筋 (JIS G 3112)	種類	径	使用箇所	継手工法
	■SD295A □SD295B ■SD345 □SD390 □UHP7-7 □KSS785	D10~D16 D19~D22	床、STP、HOOP 主筋	■重ね継手 ■ガス圧接継手 □溶接継手 □機械式継手 □機械式定着 (032以上)
高強度せん断補強筋				大臣認定番号 大臣認定番号
丸鋼 (JIS G 3112)	■SR235			
溶接金網 (JIS G 3551)	□6φ-100x100 □6φ-150x150 □6φ-75x75 □D10 #200 □D10 #150		□QLデッキ □EZ, HYPER デッキ	

- (5) ボルト
- 高力ボルト
  - F10T (JIS B1186) ■S10T 認定番号 (MBLT-0052同等)
  - F8T 認定番号 (MBLT-0050同等)
  - M16 ■M20 □M22 □M24
  - ボルト (JIS B1180): M12 M、強度レベル4 T 強度区分4、8
  - アンカーボルト、□頭付スタッドボルト (JIS B1198) → 鉄骨部材リストによる

- (6) 屋根、床、壁
- 金属系サイディング 壁厚 t=15 (7イ-工業 断熱イ-ィンク 縦張り同等品)
  - カラーガルバリウム鋼板製折版ハゼ式 II 型 t=1.0 H=162
  - 合成スラブ構造デッキプレート 形式 QL 1.2厚
  - 床型枠用鋼製デッキプレート 形式 フラット 0.8厚
  - 特殊デッキプレート
  - 押出成形セメント板 t=60 縦張り
  - 穴あきP C板スバンクリート t=
  - カーテンウォール □方立 □バックマリオン □スバンドレル □パネル

## 3. 地 盤

(1) 地盤調査と調査計画					
■有 (■敷地内口近隣)			□無 (調査予定 □有 □無)		
調査項目	資料有り	調査計画	調査項目	資料有り	調査計画
ボーリング結果	○		静荷貫入試験		
水平地盤反力係数の測定			土質試験 (物理試験)		
試験掘 (支持層の確認)			平板載荷試験		
スーテン式サウンディング			液状化判定		
孔内水平観測試験			現場透水試験		
			3軸圧縮試験		
			一軸圧縮試験		

注) 上記表中の資料があるもの、調査計画があるものに○を記入する。

(2) ボーリング標準貫入値、土質構成 (基礎・杭の位置を明記すること) → ボーリング柱状図による									
深度	土質	N値	標準貫入試験						調査地番 ※近隣敷地参照
		No.1 No.2	10	20	30	40	50	60	
1									●調査地番 ※近隣敷地参照
2									
3									●位置図 ボーリング柱状図による
4									
5									○支持地盤、地層及び深さについてのコメント
6									
7									○孔内水位 G L - m 付近
8									
9									○近隣データの調査地番と 設計地番とは約 m の距離 がある
10									
11									○備考 土留め壁工法は「・・・工法」 程度を推測する
12									

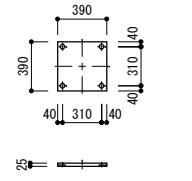
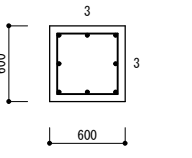
圖面名稱  
伏図・軸組図（普通教室棟）

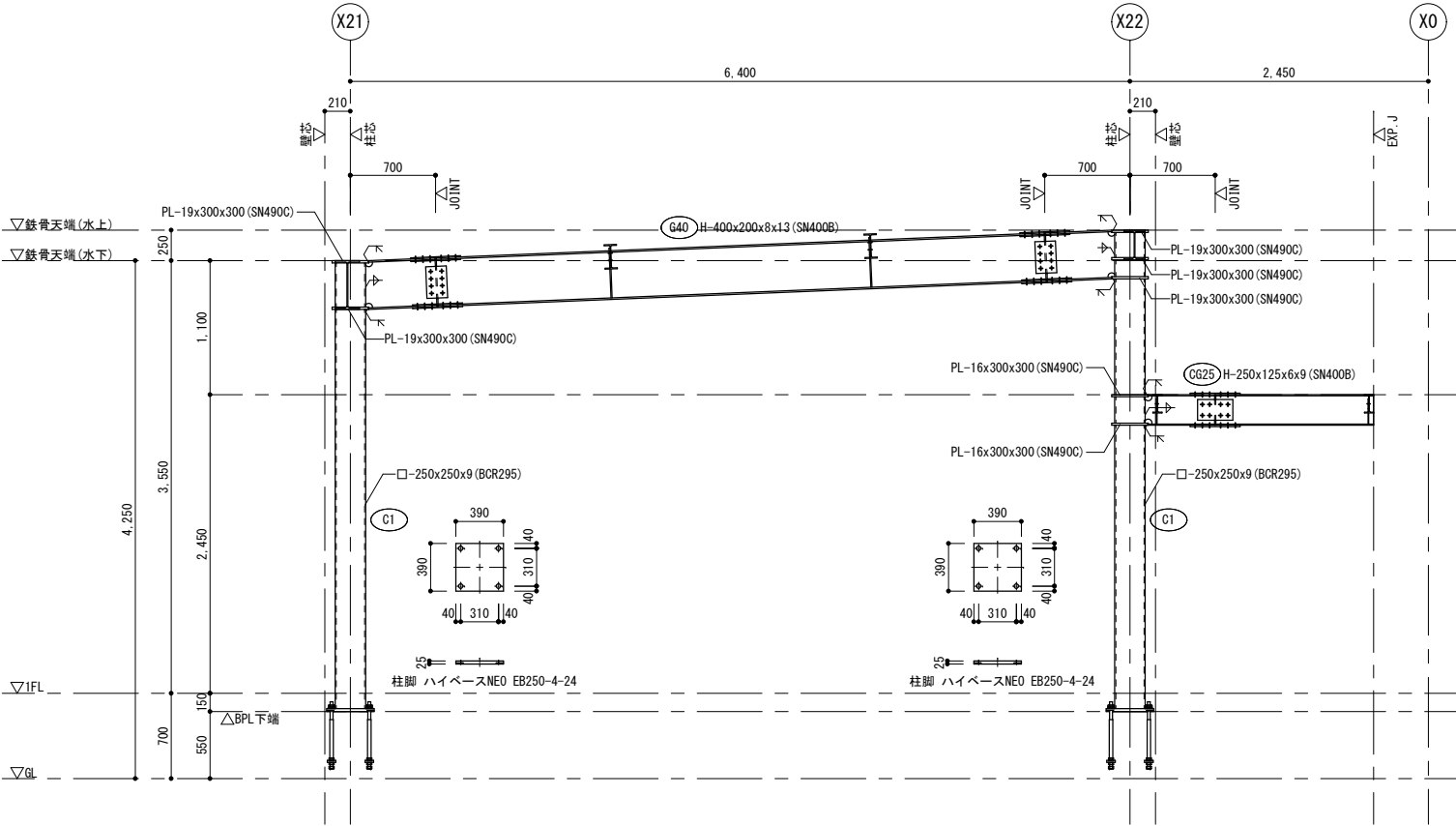
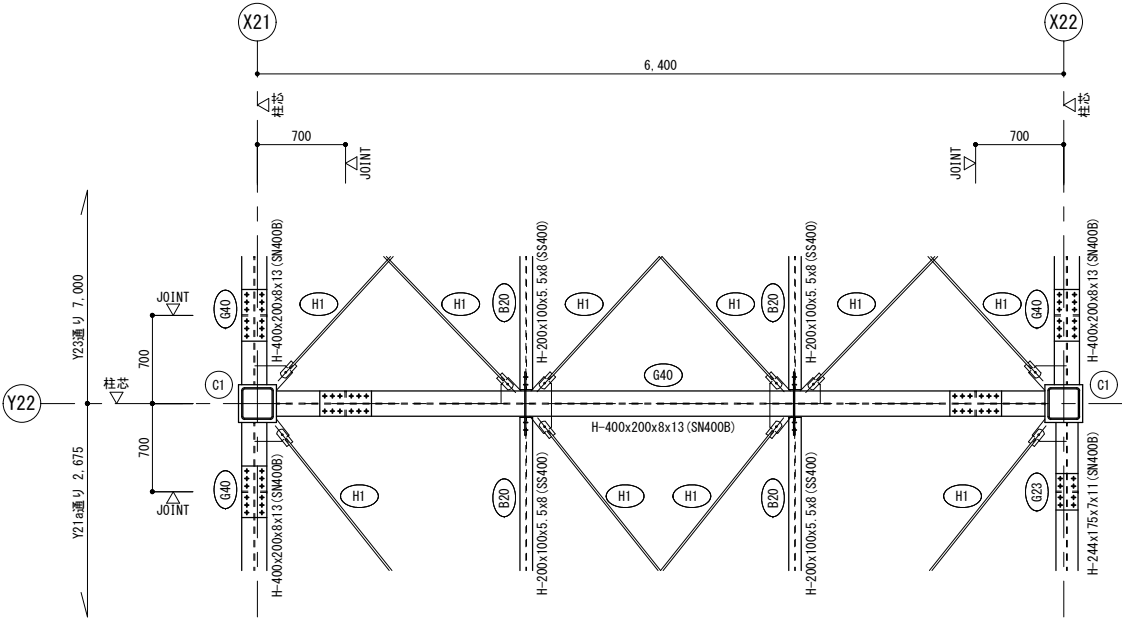
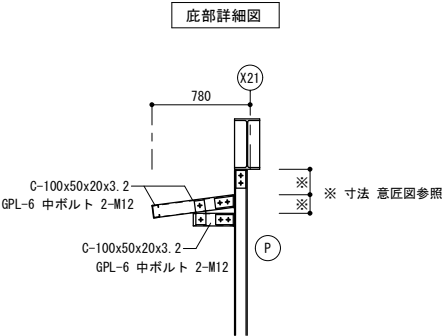


大梁リスト		共通事項： 1. ボルトはHTB S10Tとする 2. 鉄骨材質はSN400Bとする				
階 数	符 号	位 置	全 断 面	継 手 符 号	仕 口	備 考
R	G40	全断面	H-400x200x8x13	J1	—	
	G23	全断面	H-244x175x7x11	J2	—	
	G25	全断面	H-250x125x6x9	J3	—	

梁継手リスト		共通事項： 1. 特記なき限り、継手スプライスプレートは母材と同材質にする 2. ボルトはHTB S10Tとする 3. 鉄骨材質はSN400Bとする。						
形 状	符 号	主 材	J O I N T					備 考
			T1	T2	N1	T3	N2	
	J1	H-400x200x8x13	SR-9x200x410	2SR-9x80x410	6-M20	2SR-9x260x170	4-M20	
	J2	H-244x175x7x11	SR-9x175x290	2SR-9x70x290	4-M20	2SR-9x140x170	2-M20	
	J3	H-250x125x6x9	SR-12x125x410	—	6-M16	2SR-6x170x290	4-M16	
								

鉄骨部材リスト		共通事項： 1. ボルトはHTB S10Tとする 2. 鉄骨材質はSS400とする 3. アンカーボルトの材質はSNR400Bとする				
符 号	部 材	継 手 符 号	仕 口	備 考		
B35	H-350x175x7x11	—	GPL-9 4-M20			
B25	H-250x125x6x9	—	GPL-9 3-M16			
B20	H-200x100x5.5x8	—	GPL-6 2-M16	○印箇所：GPL-9 (2x2)-M16		
B15	H-150x75x5x7	—	GPL-6 2-M16			
T	H-150x75x5x7	—	GPL-6 2-M16	○印箇所：GPL-6 (2x1)-M20 下端斜加工		
H1 (屋根ブレース)	M16 (SNR400B)	—	GPL-9 1-M16	ターンバックル付き JIS規格品		
開口補強材	縦材	L-75x75x9	—	GPL-6 2-M12 中ボルト		
	横材	L-75x75x6	—	GPL-6 2-M12 中ボルト		
P	H-100x100x6x8	—	GPL-9 2-M16 中ボルト	BPL-16x100x200 A.BOLT 2-M16 L=560 MN フック付		

柱リスト		共通事項： 1. 鉄筋材質 柱 BCR295 とする	
階	符 号	C1	
	部 材	□-250x250x9	
	備 考		
柱 脚	断 面		
	ベースプレート	ハイベースNEO EB250-4-24	
	アンカーボルト	4-M24	
	備 考		
基 礎 柱	符 号	FC1	
	断 面		
	柱 筋	8-D19 (SD345)	
	フープ	□-D13@150 (SD295)	
	備 考	配筋ゾーン (I)	



Y22通り鉄骨架構詳細図 1：30

- 特記事項  
1. 特記なき限り、通り芯=柱芯とする  
2. 溶接記号番号は鉄骨構造標準図(1) 2. 溶接規準図による  
3. 特記なき鋼材はSS400を示す